

# Alzheimer Dementia Café

## 横浜市における 認知症カフェの実態に関する 調査報告書

横浜市健康福祉局高齢在宅支援課  
令和2年3月

## 1 はじめに

認知症カフェは、「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場<sup>※</sup>」であるとされ、認知症の人と家族にとって居場所となるだけでなく、地域の人や専門家と情報を共有し、理解し合える地域の関係者の連携の場ともなっている。

横浜市は、認知症の人と家族が安心して暮らせる地域づくりのひとつとして、認知症カフェの取組みを平成 28 年より進め、市内にはさまざまな認知症カフェが開設されている。

そこで、横浜市内の認知症カフェにアンケート調査を行った。

本調査で認知症カフェの現状と課題を把握し、今後の認知症カフェの活動支援に役立て、認知症の人と家が安心して楽しく参加できる認知症カフェのさらなる発展を目指す。

※厚生労働省認知症施策検討プロジェクトチーム「今後の認知症施策の方向性について」(平成 24 年 6 月 18 日)

## 2 目次

3	調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 ページ
	(1) 調査の背景	
	(2) 調査の目的	
	(3) 調査の概要	
4	「横浜市における認知症カフェ」の概況・・・・・・・・・・・・・・・・	2 ページ
	(1) 主な開催場所	
	(2) 主な運営主体	
	(3) 開催方法	
	(4) 開催頻度と時間	
	(5) 参加費について	
	(6) 主なプログラム	
	(7) 参加事前申込	
	(8) カフェの主な目的	
	(9) 参加者について	
	(10) 参加者の主な交通手段	
	(11) 認知症の人の参加形態	
	(12) 運営スタッフの内訳	
	(13) 運営スタッフの役割について	
	(14) 運営にかかわる主な財源	
	(15) 開設の資金	
	(16) 年間の運営費	
	(17) 他の機関や事業所等との連携	
	(18) カフェ運営で連携している団体	
	(19) カフェの運営以外で協力をしてくれる団体	
	(20) 開設までの経緯	
	(21) 始めるにあたって課題となった点	
5	「現状のカフェ運営の課題や現状」について・・・・・・・・	14 ページ
	(1) 運営者の感じる課題や現状	
	(2) すでに取り組んでいる課題に対する工夫の内訳	
6	認知症カフェの効果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15 ページ
7	認知症カフェの立ち上げ及び運営する上で特に必要と思う支援	17 ページ
	(1) 立ち上げに必要な支援	
	(2) 継続的な運営に必要な支援	
8	横浜市における認知症カフェの実態に関する調査 調査結果の詳細	18 ページ

### 3 調査の概要

#### (1)調査の背景

認知症高齢者の増加に伴い、認知症の人を地域で支える取組はさらなる充実が求められるなか、本市では第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画において「認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進」の一環で取り組んでいる。

市内の認知症カフェは、118か所（2019年12月時点）と着実に増えているが詳細な実態把握は十分でなく、活動支援を行ううえでのニーズ把握ができていないことが課題となっていた。

#### (2)調査の目的

- ・市内で開設されている認知症カフェの現状や課題、工夫、効果等を把握し共有する。
- ・新たな認知症カフェの立ち上げや認知症カフェの継続的な活動に取り組めるよう、今後の活動支援に役立てる。

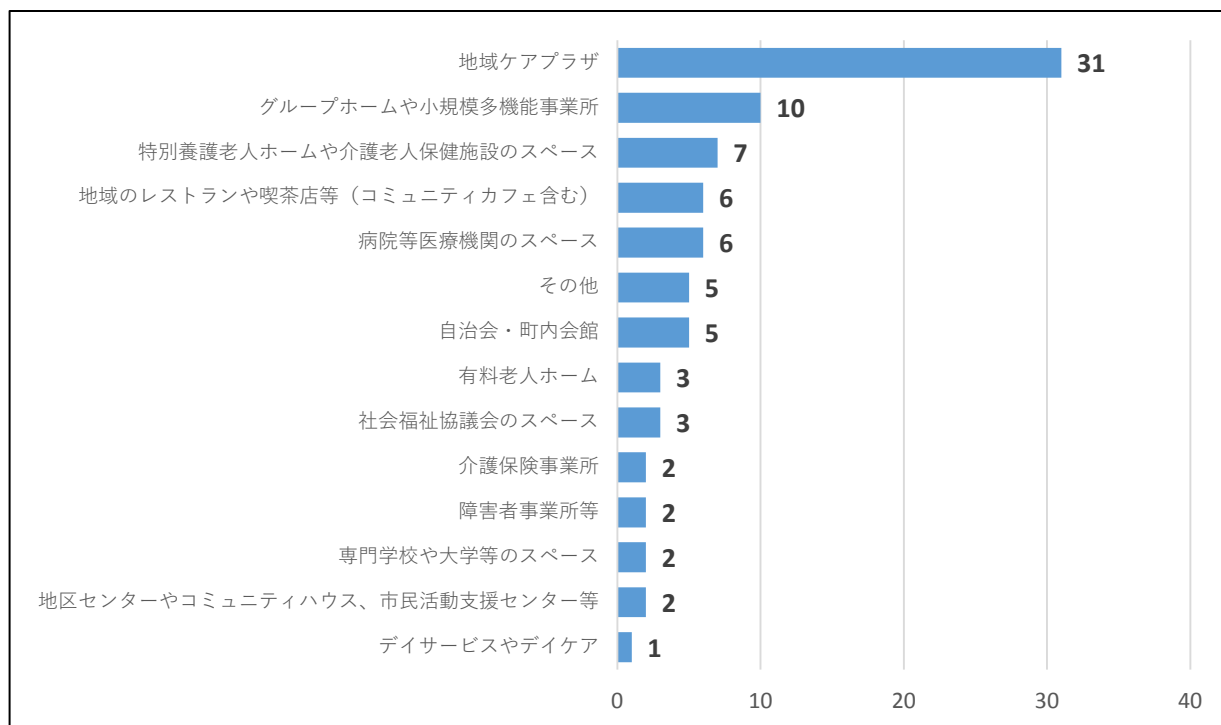
#### (3)調査の概要

- ア 調査対象：2019年3月31日時点で開設されている「横浜市内の認知症カフェ」
- イ 調査方法：市内の認知症カフェに調査票を郵送し、認知症カフェの運営者に回答を依頼した。回収は郵送で行った。
- ウ 調査時期：2019年5月10日（調査票郵送）～2019年6月14日（回収）
- エ 調査票回収状況：発送数109票 回収88票 回収率80.7%

## 4 「横浜市における認知症カフェ」の概況

### (1) 主な開催場所

(n = 85)



開催場所は地域ケアプラザが31カ所と最も多く、続いてグループホームや小規模多機能事業所、特別養護老人ホームや介護老人保健施設のスペース等、介護保険施設での開催が多い。

その他の内訳は、寺院、時間貸しスペース、マンションの集会室、民間企業スペース等であった。

### (2) 主な運営主体(共同運営の場合は複数回答)

運営主体	カ所	運営主体	カ所
地域ケアプラザ（地域包括支援センター）	46	複数の主体からなる新たな実行委員会を形成	5
地域のボランティア	15	社会福祉協議会	5
その他	15	居宅介護支援事業所	3
グループホームや小規模多機能事業所	11	医療機関	4
町内会、自治会、民生委員児童委員協議会等	10	居宅介護サービス事業所	3
家族会	4	認知症キャラバン・メイト	3
NPO 法人等	4	特別養護老人ホームや介護老人保健施設	2

運営主体は地域ケアプラザが46か所で最多であった。その他の内訳は、個人、有志のケアマネジャー、有料老人ホーム、家族サポート委員会等であった。

**(3) 開催方法** (n = 88) (単位：カ所)

定期的に認知症カフェを単独の取組として開催している	68
定期的なサロン活動のうち特定の日を認知症カフェとして開催している	8
その他	8
認知症の普及啓発等のイベントに合わせて開催している	2
未回答	2

認知症カフェを定期的に単独な取組として開催しているところが68か所で、全体の77%であった。

**(4) 開催頻度と時間** (n = 88)

開催頻度	カ所	開催頻度	カ所
月1回	69	月2回	2
年6回	10	週2回	1
週1回	3	年1-2回	1
年4回	2		

開催頻度は月1回が69カ所で全体の78%であった。

時間	カ所	時間	カ所
2時間	49	5時間	3
1.5時間	16	2.5時間	2
3時間	7	4時間	1
1時間	5	6時間	1
未回答	4		

1回あたりの開催時間については、2時間が49カ所で全体の56%、続いて1.5時間が16カ所で18%であった。

**(5) 参加費について**

(n = 88) (単位：カ所)

1回ごとに利用料をもらう	66
無料	17
その他	5

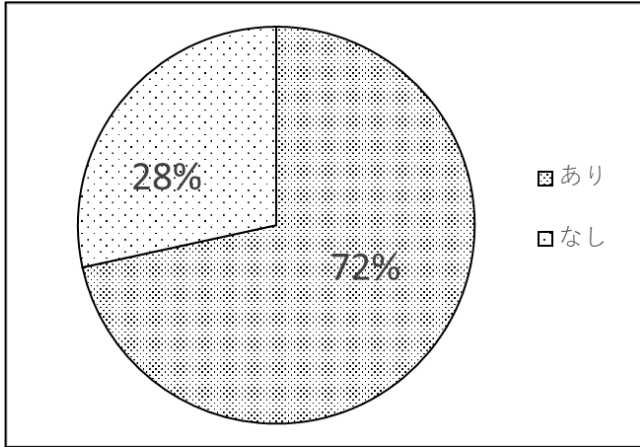
1回ごとにもらうところが66カ所で全体の75%、続いて無料が17カ所で19%であった。その他は、会場で販売されている飲み物等を購入した場合に生じる代金であった。

(n = 67)

参加費	カ所
50円	1
75円	1
100円	46
200円	10
300円	8
500円	1

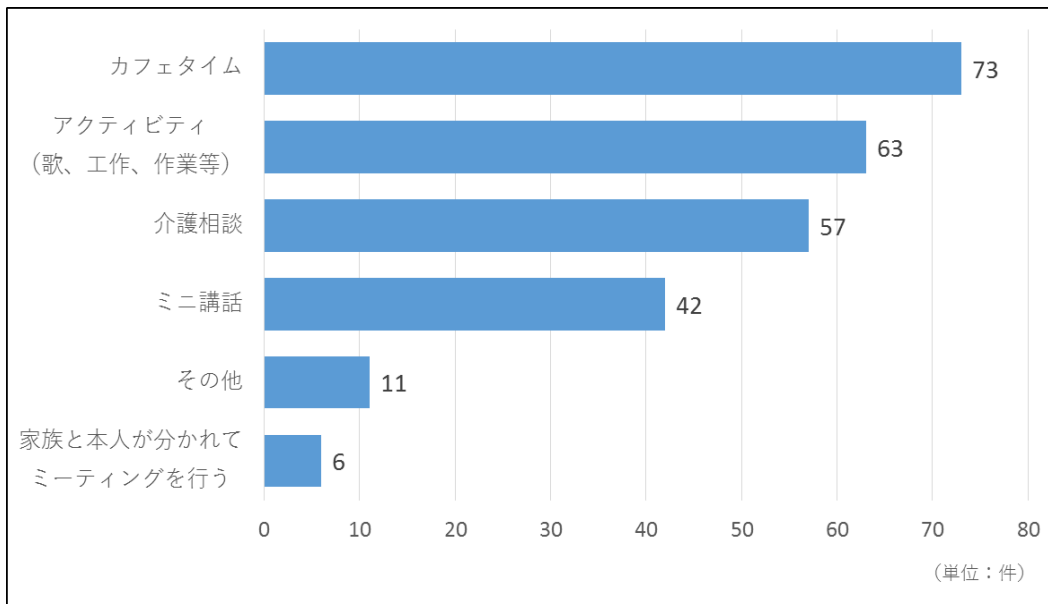
参加費は、100円が46カ所で全体の69%、続いて200円が10カ所で15%、300円が8カ所で12%であった。50円、75円、500円はいずれも1カ所であった。

(6) 主なプログラム(複数回答可) (n=88)



プログラム「あり」は、全体の72%、「なし」は28%であった。主な内容は多い順にカフェタイム、アクティビティ、介護相談、ミニ講等であった。

<プログラムの内容>



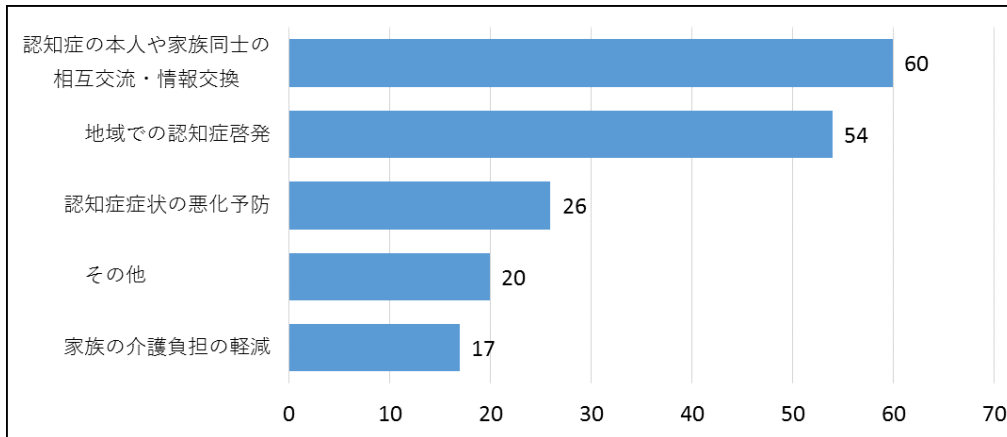
(7) 参加事前申込 (n=88) (単位：カ所)

参加事前申込	
不要	78
必要	7
未回答	2
その他	1

参加事前申込が不要なカフェは78カ所で、全体の89%と大半を占めた。その他は、「初回時のみ申込が必要」であった。

**(8) カフェの主な目的 (2つまで回答可)**

主なカフェの目的は、「認知症の本人や家族同士の相互交流・情報交換」60件 (34%)、続いて「地域での認知症啓発」54件 (31%)、「認知症症状の悪化予防」26件 (15%)、「その他」20件 (11%)、「家族介護の負担軽減」17件 (10%)であった



(単位：件)

**(9) 参加者について (複数回答可)**

**ア 毎回の平均的な参加者数**

毎回の平均的な参加者数	カ所	毎回の平均的な参加者数	カ所
0～5人未満	9	35～40人未満	6
5～10人未満	10	40～45人未満	2
10～15人未満	11	45～50人未満	2
15～20人未満	12	50～55人未満	3
20～25人未満	14	55～60人未満	1
25～30人未満	7	60～65人未満	2
30～35人未満	8	未回答	1

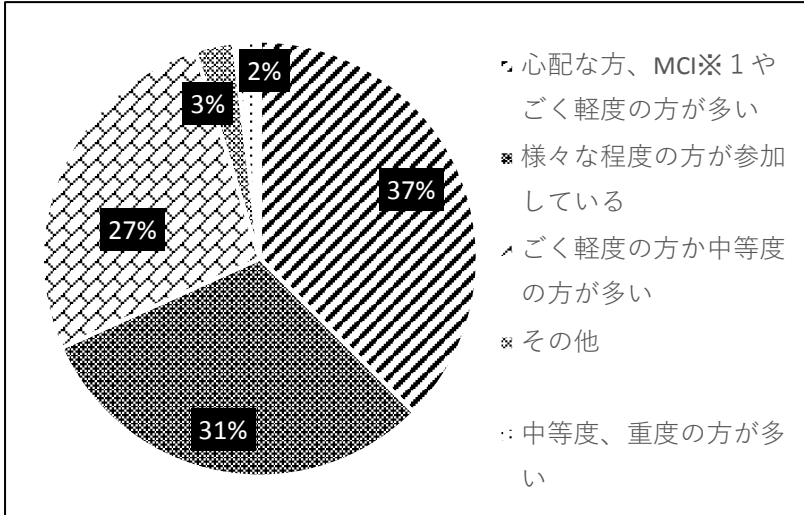
1回あたりの参加者数は20～25人未満が14カ所で最多であった。続いて15～20人未満が12カ所、10～15人未満が11カ所であった。

**イ 参加者に占める認知症の人の数**

参加者に占める認知症の人の数	カ所	参加者に占める認知症の人の数	カ所
0人	4	15～20人未満	2
0～5人未満	49	20～25人未満	2
5～10人未満	20	25～30人未満	3
10～15人未満	6	未回答	2

参加者に占める認知症の人の数は、1～5人未満が49カ所で全体の56%、5～10人未満が25カ所 (28%)であった。また4カ所のカフェは0人であった。

ウ 認知症の主な程度



認知症の主な程度は、心配な方、MCI※やごく軽度の方が多いが37%、ごく軽度の方か中等度の方が多いが27%。

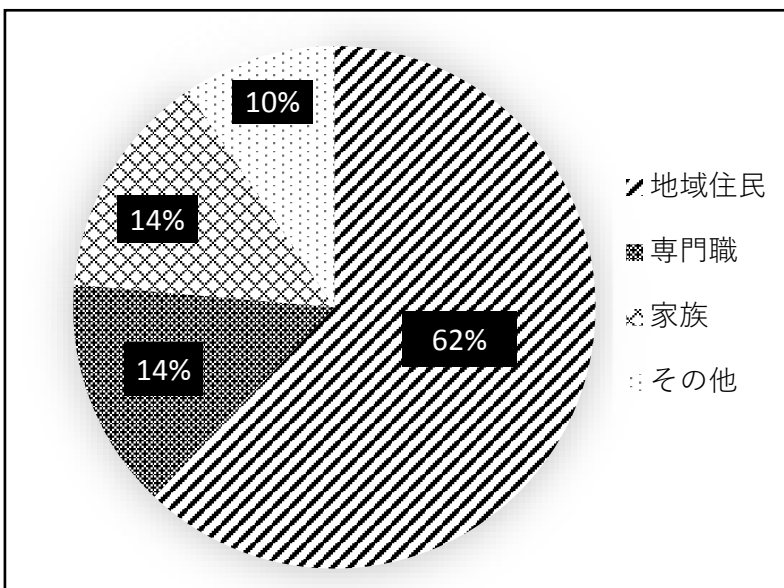
※軽度認知障害のことで、正常と認知症の中間の状態をいう。

エ 認知症の人の年齢（複数回答可）（単位：カ所）

65歳以上の認知症のご本人	78
64歳以下の認知症のご本人	19

78カ所の認知症カフェで65歳以上の認知症のご本人が参加している。

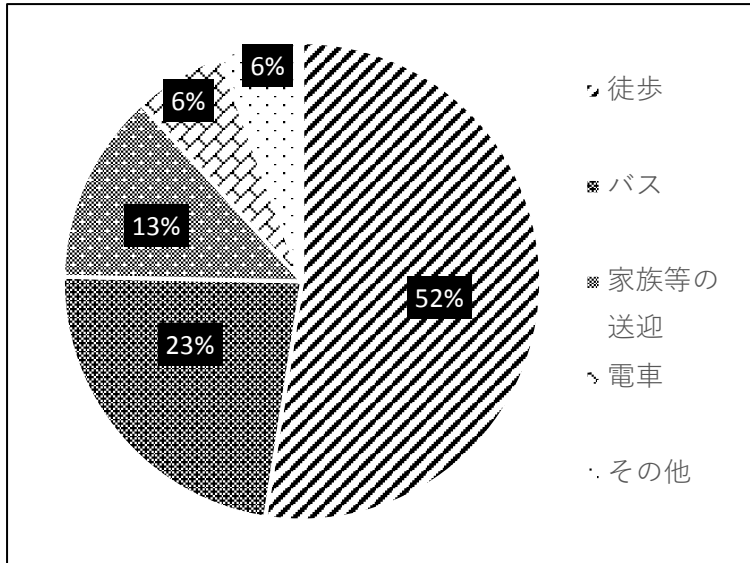
オ 認知症の人以外の参加者の内訳（複数回答可）



62%が地域住民、14%が家族及び専門職、その他は10%であった。



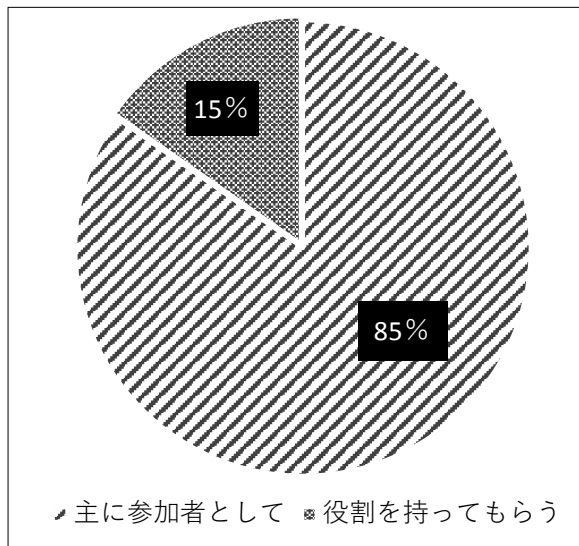
(10) 参加者の主な交通手段 (複数回答可)



主な交通手段は徒歩が52%と最も多く、続いてバス23%、家族の送迎13%、電車とその他が6%であった。

その他は、移送サービスの利用や地域の社会福祉法人等による送迎であった。

(11) 認知症の人の参加形態 (複数回答可)

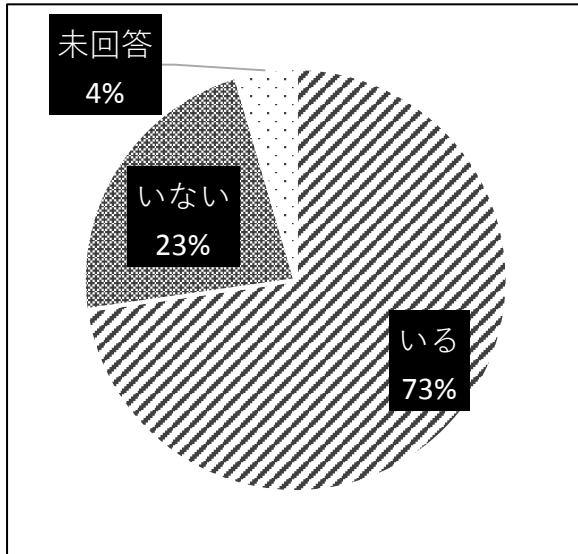


参加形態については「主に参加者として」が85%、役割を持ってもらうは15%であった。

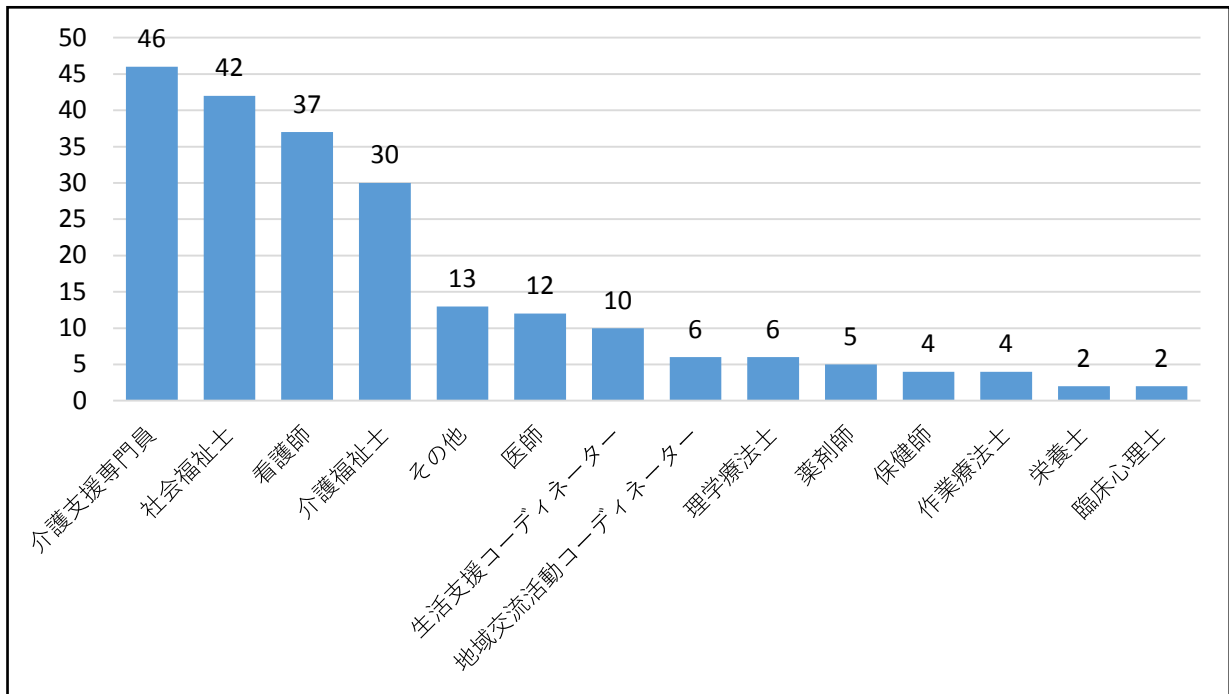
認知症の人の役割内容
レコードをかける
お茶の配膳
運営に参加
ハンドドリップでコーヒーを入れる
お茶出し、会場準備

※役割の内容について一部抜粋

(12) 運営スタッフの内訳（複数回答可）



認知症カフェの運営を専属で担当するスタッフの有無では「有」と答えたカフェが全体の73%であった。



運営スタッフの内訳は多い順に、介護支援専門員、社会福祉士、看護師であった。その他の内容は事務、言語聴覚士、音楽療法士、歯科衛生士、保育士等であった。

(13) 運営スタッフの役割について (一部抜粋) ※詳細は 18 ページ参照

専門職の役割
参加者の見守り 対象者の把握と地域包括支援センターとの連携
作業療法士として学生の実施におけるリスク管理と相談援助
相談があった時の聞き取り、専門機関へつなげる、参加者に専門職の視点を伝える。
音楽療法士は 45 分程度、認知症の人と音楽を行う
ミニ講座 (認知症の勉強)
カフェの司会、会場の誘導、話し相手
運営企画広報
地域の方の初参加等の方に対して、居心地の良い場所作り
参加者の体調の把握
ファシリテート、認知症支援のアップデート、資料準備
食材購入、ボランティアのサポート、流れの決定、講師の調整等
介護保険等制度の説明
ボランティアとの打ち合わせ
薬剤師：健康に関するタイムリーな情報提供、相談員：認知症の現状についての用例
年間プログラムの作成、カフェのプロデュース
運営団体との顔つなぎと、広報誌を利用した普及啓発のための準備
全体の管理、運営、個別支援、団体の調整
健康チェック、相談、傾聴
医師：認知症などのミニ講話、社会福祉士：全体的なファシリテーター
運営全般 (グループホーム施設内での実施)

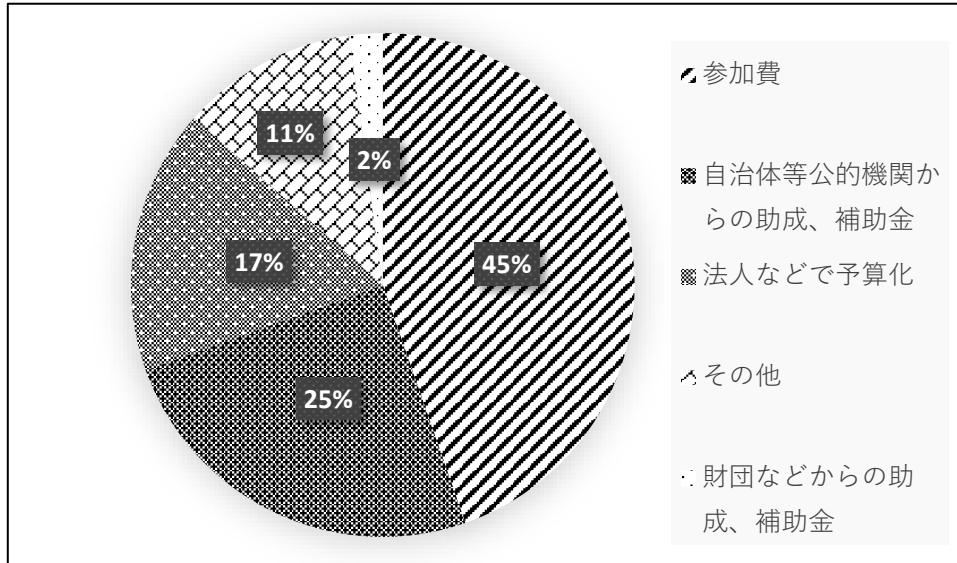
地域住民の役割
受付、接待、話し相手
認知症ボランティアのサポート、運営手伝い、カフェがよりよくなるためのアイデア出し
受付、お茶菓子の準備、片付け、交流、見守り
企画内容打合せ (内容によっては) 講師役
レコード準備
司会、テーブルのセッティングとお茶の配膳
カフェの運営 (主にカフェの役員が担う)、会計、イベント企画
認知症キャラバン・メイトとして情報提供や傾聴
会場の提供、地域住民への開催周知等、地域ケアプラザの広報紙等を架配してもらっている
ボランティアに隣近所への声掛けや一緒に参加して頂く。施設利用者、退所者のご家族に声掛けと参加の促し。

会場を楽しみの場所として、会話を中心として盛り上げている。
会場準備、企画、運営
来訪された方の傾聴やレクリエーションの参加を共にしている
本人会にて見守りの手伝い、食事作り
折り紙をしながら、若い時の話を聞く等。コミュニケーション
認知症の方へ会への参加を促す
カフェの運営全般
広報、事前準備、買い出し、当日の運営
企画、準備、役割担当
広報：チラシを作成、掲示板で周知、会場設営、運営、茶菓の提供、安全の確保、ゲームや歌のリード
地域住民への周知や対象者の発掘
会場設営、会計、茶菓子の準備、給仕等
当日のサポーターとして世話人と一緒にかかわる
相談援助、話し相手、ミニ講座、お茶出し
担当する方へお声掛けとお誘い。
企画運営、プログラムの検討、当番、個別対応
近所の住民として顔見知りの関係を築く
経験を共有する、サービスを紹介する
ボランティアとして軽作業+元介護者として家族の傾聴アドバイス等

その他の人の役割
理学療法士、作業療法士の養成校の学生が日々学んだことを地域貢献として実施。
人生豊かな高齢層としてお話相手、飲食物、菓子の準備、作業補助
利用者との談話、脳トレ、歌のコーナーを担当
ボランティアに隣近所への声掛けや一緒に参加して頂く。施設利用者、退所者のご家族に声掛けと参加の促し。
地域住民ボランティアが当日の会場設定、コーヒー作り、接客、後片付けまでを行う。
会場準備、企画、運営
茶菓の提供、会場作り
カフェ配膳、お客様とお話をする
手芸、子供の対応
楽しく安全に進行
ファシリテーター
会場設営、運営、司会、年間カフェテーマの計画、手配
相談援助を行い、地域ケアプラへつなぐ、話し相手、お茶入れ、参加者の見守り
運営の準備、広報、事務、会計、受付、お茶準備

利用者との会話、コーヒー等の提供
企画、準備、連絡調整、介護相談等
設営、カラオケ、受付等
相手の立場にたち傾聴する。その方の必要と考えられることにつなげる
会の運営、利用者のサポート、見守り
カフェ実行委員会の役員及びリーダー的存在
演奏等の発表

(14) 運営にかかわる主な財源



主な財源は、参加費を財源にしている所が最も多く45%、続いて自治体等公的機関からの助成・補助金25%、法人等で予算化17%、その他11%、財団等からの助成金2%であった。

自治体等公的機関からの助成・補助金（35カ所）の実施主体については、24カ所（69%）が社会福祉協議会による「ふれあい助成金」であった。

(15) 開設の資金 (n = 77)

開設資金	カ所
0円	39
5,000～30,000円	17
30,001～60,000円	10
60,001～90,000円	6
90,001円以上	5

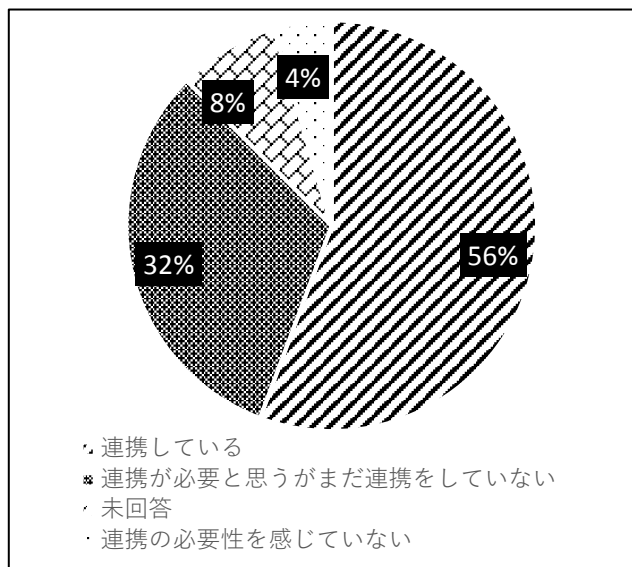
開設資金は0円が39カ所、5,000円～30,000円が17カ所、30,001円～60,000円が10カ所、60,001円～90,000円が6カ所、90,001円以上は5カ所であった。主な開設資金の用途は開設に伴う備品、物品購入が多かった。

(16) 年間の運営費

年間運営費	カ所
0円	9
2,000～30,000円	30
30,001～60,000円	13
60,001～90,000円	8
90,001～120,000円	12
120,001円以上	10

年間の運営費について0円が9カ所、2,000円～30,000円が30カ所、30,001～60,000円が13カ所、60,001～90,000円が8カ所、90,001円～120,000円が12カ所、120,001円以上が10カ所であった。

(17) 他の機関や事業所等との連携 (n = 88)



他の機関や事業所等と連携をしているところが56%、連携が必要と思うがまだ連携をしていないが32%、連携の必要性を感じていないが4%であった。

(18) カフェ運営で連携している団体 (n = 87)

連携している団体数	カ所	連携している団体数	カ所
0 団体	6	4 団体	7
1 団体	19	6 団体	1
2 団体	7	7 団体	1
3 団体	4	未回答	42

1団体と連携をしているところが19カ所と最も多く、2団体～4団体と連携しているところの合計は18カ所であった。最多は7団体との連携で1カ所であった。

(19) カフェの運営以外で協力をしてくれる団体 (n = 88) (単位：カ所)

カフェの運営以外で協力してくれる団体	カ所
協力あり	46
協力なし	42

運営以外で協力してくれる団体があるところは46カ所であった。

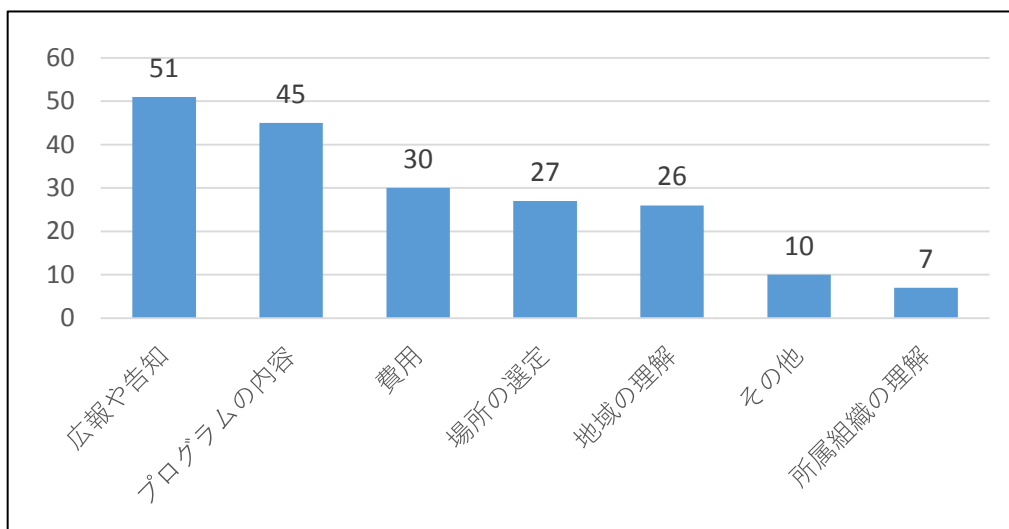
主な協力団体については自治会・町内会、地域ケアプラザ、社会福祉協議会、介護保険施設・事業所等であった。

(20) 開設までの経緯等 (自由記述)

23ページ参照

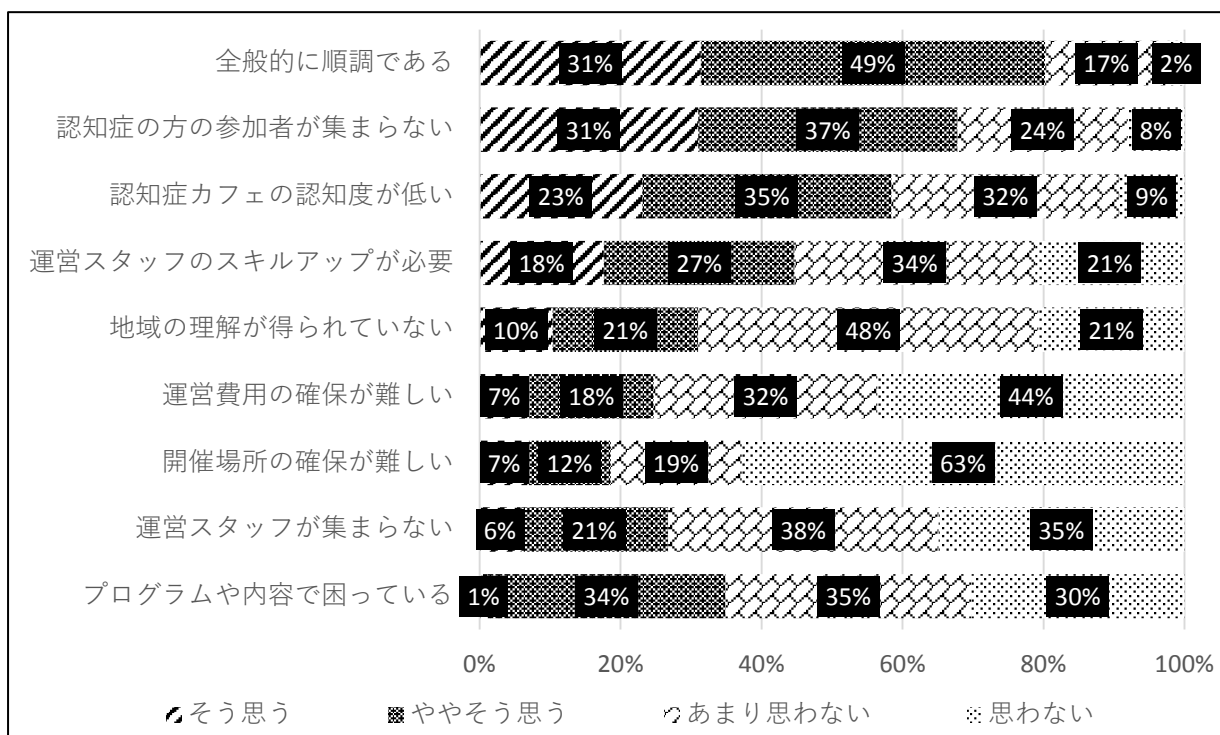
(21) 始めるにあたって課題となった点（複数回答可）

認知症カフェを始めるにあたっての課題は、広報や告知が51カ所、プログラムの内容が45カ所、費用が30カ所、場所の選定が27カ所、地域の理解が26カ所、その他が10カ所、所属組織の理解が7カ所であった。 ※詳細な内容は27ページを参照



5 「現状のカフェ運営の課題や現状」について

(1) 運営者の感じる課題や現状

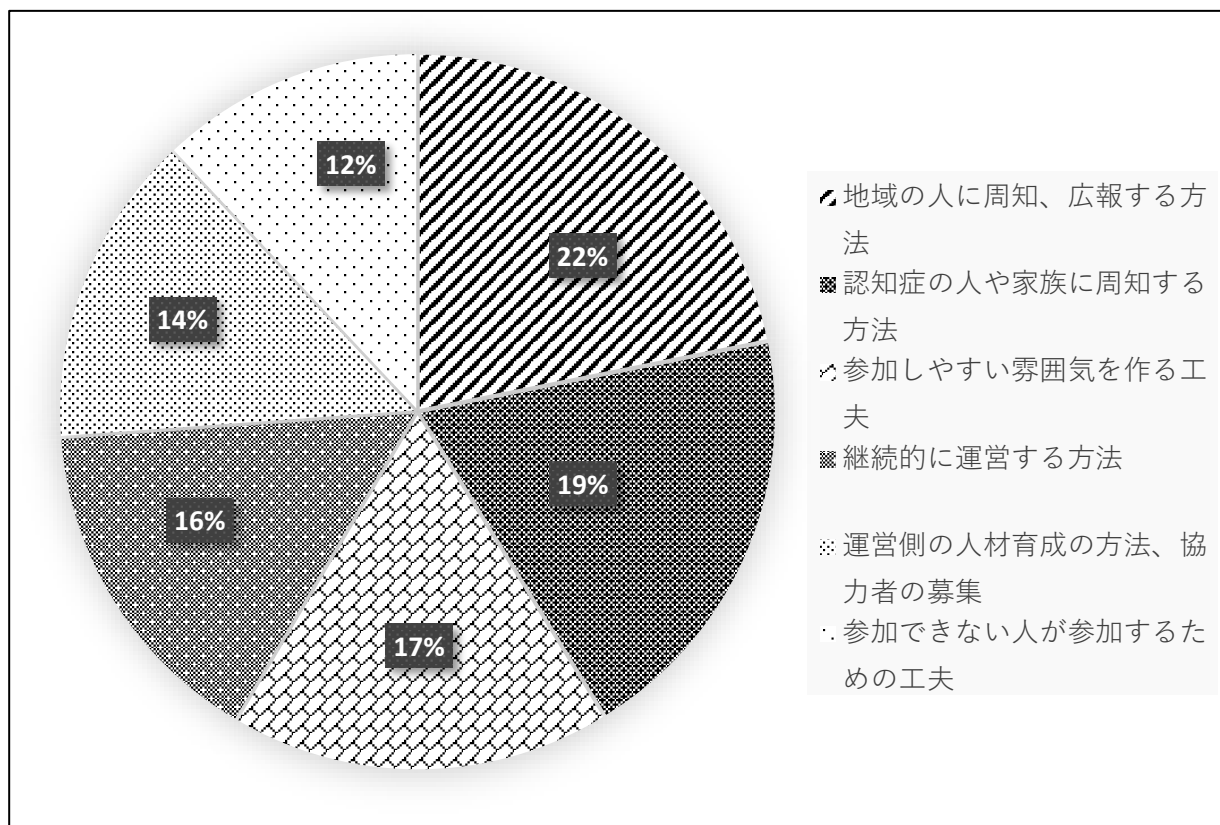


「全般的に順調である」の項目に対し、「そう思う」「ややそう思う」の回答の合計は80%であった。一方、「認知症の方の参加者が集まらない」「認知症カフェの認知度が低い」の項目に対し、「そう思う」「ややそう思う」の回答の合計はそれぞれ68%、58%であった。

※ 認知症カフェを運営するうえで感じている課題や疑問の詳細は、29ページを参照



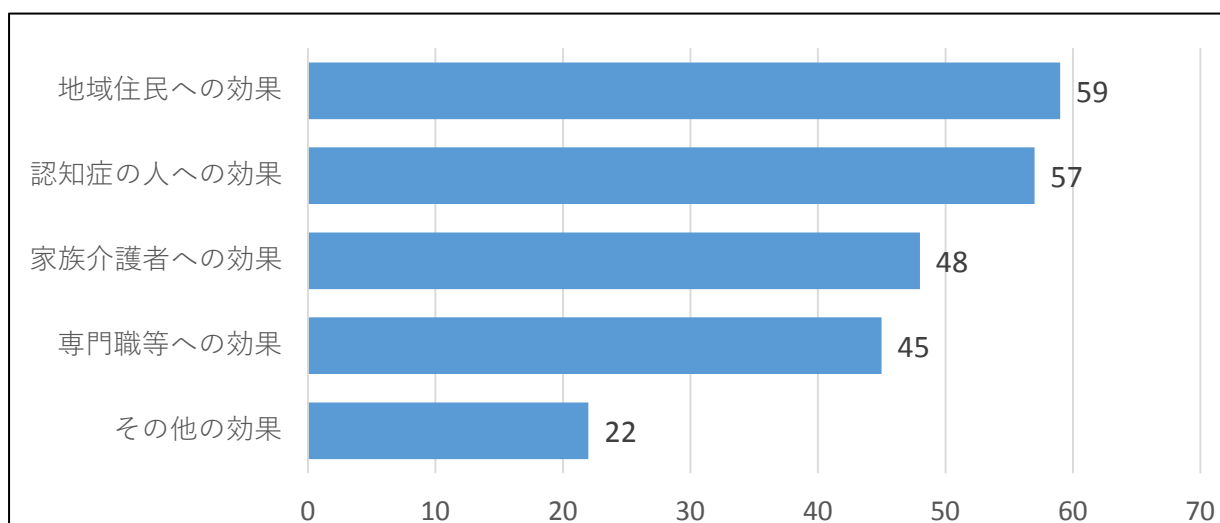
## (2) すでに取り組んでいる課題に対する工夫の内訳



カフェの課題に対する工夫については、それぞれの課題に対し、すでに取り組みが進められており、「地域の人に周知する方法」や「認知症の人や家族に周知する方法」への工夫等の取組が行われている。

※詳細な内容は32ページを参照

## 6 認知症カフェの効果 (複数回答)

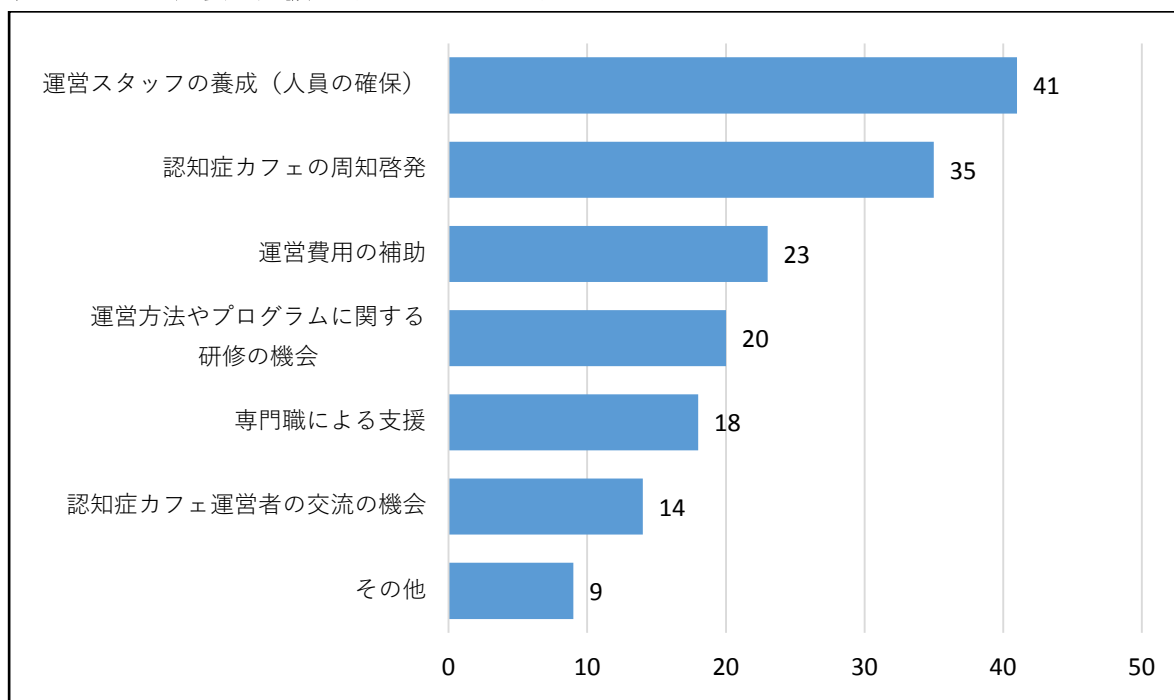


「認知症カフェを運営するうえで、現時点でその効果が表れていると感じていること」に対し、「地域住民への効果」が59カ所、「認知症の人への効果」が57カ所、「家族介護者への効果」が48カ所、「専門職への効果」が45カ所の順に回答数が多かった。

<p>認知症の人への効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な集いの場で他者との交流ができる</li> <li>・外出の機会が増えた。人の中に加わることで、笑いや表情が明るくなった</li> <li>・料理やお菓子作り等、普段自宅ではできないプログラムをすることにより、新たな刺激を得ることにつながっている。</li> <li>・家に閉じこもらず、意欲がでてきた</li> <li>・参加者の状態によるが、小さいグループなので、コーヒーを入れたり役割をもつことができる</li> </ul>
<p>地域住民への効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの活躍の場が提供できている</li> <li>・認知症の理解（症状、検査、薬等）や介護情報等、知識を深め役立てることができた</li> <li>・高齢化率が高く、外出のきっかけ、顔見知りが増え、予防効果につながる</li> <li>・認知症を身近なものにとらえ、さりげなくサポートをする人もいる。</li> <li>・認知症の人と接して、認知症サポーター養成講座で学んだことを実践できる</li> </ul>
<p>家族介護者への効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアカウンセリングのように、お互いの介護を話し、癒される場になっている</li> <li>・介護者同士の普段「怒ってしまった時の対応」や「同じ行動をとってしまう本人への対応」に困っていることについて気持ちを共有でき、カフェ以外での交流もされている</li> <li>・介護している方の息抜きできる一時となっている</li> <li>・医師を含め、専門職からの助言等、地域ではあまり聞けない話ができ、満足してもらえている</li> <li>・若年性認知症の介護者同士が認知症カフェを通じて知り合い、積極的に情報交換できた</li> </ul>
<p>専門職等への効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな相談事が、早期発見、相談、必要なケアへつなげられている</li> <li>・地域の高齢者実態の把握</li> <li>・心療内科医師が認知症カフェに興味を持ち講座等を開催、認知症カフェの広報につながり、住民の参加につながった</li> <li>・認知症サポート医が、診察時とは違う本人の一面を知ることができた</li> <li>・地域の中で課題を持った人を、先ず認知症カフェにつなげてみよう！という動きが出た</li> <li>・若年性認知症の当事者を理解することが出来た（当事者と話すことで困っていることや、何が必要なかを知ることが出来た）</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの意欲継続につながる</li> <li>・学生が病院実習へ行く前に高齢者とかわることでコミュニケーション能力が向上</li> <li>・認知症カフェ以外の場所で参加者に出会ったときに声が掛けられる</li> <li>・他の認知症、予防カフェ実施団体との交流も深まり情報交換や、運営方法について参考になっている</li> <li>・若年認知症の人が制度を利用する前の定期的な参加ができる場となっている</li> </ul>

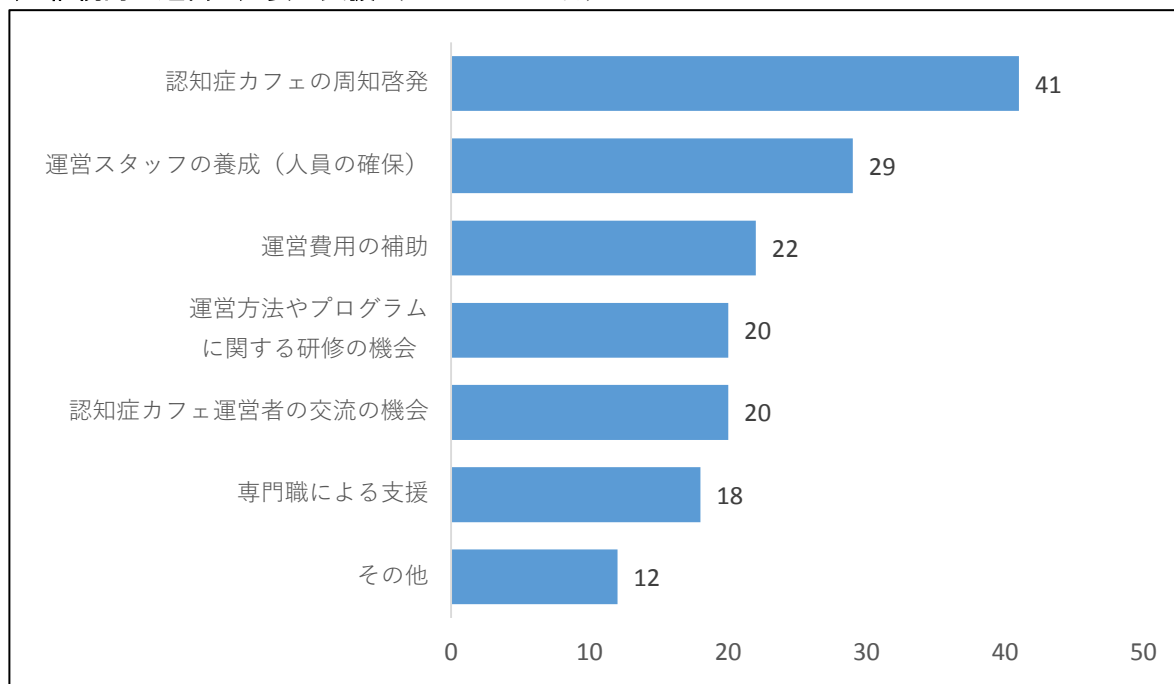
## 7 認知症カフェの立ち上げ及び、運営する上で特に必要と思う支援

### (1) 立ち上げに必要な支援 (\*2つまで回答)



認知症カフェ立ち上げに必要な支援として最も多かったのは、「運営スタッフの養成 (人員の確保)」が41カ所、続いて「認知症カフェの周知啓発」が35カ所であった。

### (2) 継続的な運営に必要な支援 (\*2つまで回答)



継続的な運営に必要な支援として最も多かったのは、「認知症カフェの周知」が41カ所、続いて、「運営スタッフの養成 (人員の確保)」が29カ所であった。

## 8 横浜市における認知症カフェの実態に関する調査 調査結果の詳細

### 4-(13)運営スタッフの役割について

専門職の役割
参加者の見守り、対象者の把握と地域包括支援センターとの連携
作業療法士として学生の実施におけるリスク管理と相談援助
相談時があった時の聞き取り、専門機関へつなげる、参加者に専門職の視点を伝える
見守り、受付、運営企画
介護等の相談
認知症の方や初めての方にもできる手作業の企画、傾聴、学生指導
会場確保・講師調整
会場準備・領収書発行
音楽療法士は 45 分程度、認知症の人と音楽を行う
カフェ、企画運営
ミニ講座（認知症の勉強）
相談援助
当日のカフェの運営（バリスター、ホール、受付）
広報、相談支援
専門的アドバイス
カフェの司会、会場の誘導、グループに入り話し相手
相談等
運営・企画・広報
会場提供者との連絡調整、参加者への情報提供等
関係機関との連絡調整。参加者への情報提供
カフェの運営、準備、当日スタッフ、PR、介護相談、他機関部門へのつなぎ等
相談・買い物（食品）
地域の方の初めて参加等の方に対して、居心地の良い場所作り
企画・運営。相談受付など
相談や情報交換等
家族会にて専門的な助言
介護相談等
本人、家族の相談。必要に応じて他機関との連携調整
個人個人の変化や体調の把握
ファシリテート、認知症支援のアップデート、資料準備
食材購入、ボランティアのサポート、流れの決定、講師の調整等
企画・運営、各相談
傾聴
運営全般（介護福祉士、ケママネジャーが中心）
カフェ準備、傾聴
介護相談
相談援助
進行、相談、運営

来場者からの個別相談対応
具体的なアドバイス
介護保険等制度の説明
ボランティアとの調整
プログラムの検討、チラシ作成
薬剤師：健康に関するタイムリーな情報提供、相談員：認知症の現状についての用例
傾聴、助言
参加者の見守り、相談、お菓子の配布
年間プログラムの作成、カフェのプロデュース
介護相談等
相談事への対応（認定申請、介護施設、日常生活）
会場の設置、飲食の用意、飾り付け等
運営団体との顔つなぎ、広報誌への協力
全体の管理、運営、個別支援、団体の調整
運営全般（進行や金銭管理）
プログラムを決める、チラシの作成周知、会場の設営、物品の準備、参加者への声掛け、作業補助
相談援助、傾聴、ミニ講座
相談、脳トレ、講話
運営、調整
相手の立場になって話を傾聴し、その人のニーズに沿った支援へのつなぎ
情報提供、相談
見守り、声掛け
相談等
ミニ講座
会場準備、片付け、参加者対応、相談対応
進行、ゲームの提案、相談対応
健康チェック、相談、傾聴
情報提供、直接利用者の声を聴いて相談にのる
参加者への専門的対応
ミニ講座
医師：認知症などのミニ講話、社会福祉士：全体的なファシリテーター
運営全般（施設内での実施に伴う準備等）
話し相手（相談相手）、情報提供等
企画、運営、物品用意
相談にのる、講座を担当する、サービス利用を支援する
運営全般（配膳、傾聴等）

地域住民の役割
受付・接待・話し相手
認知症ボランティアのサポート、運営手伝い、カフェがよりよくなるためのアイディア出し
受付、お茶菓子の準備、片付け、交流、見守り
お茶やお菓子の提供
企画内容打合せ（内容によっては）講師役
レコード準備
参加者として
司会、テーブルのセッティングとお茶の配膳
傾聴
カフェの運営（主にカフェの役員が担う）
会計、イベント企画、当日のカフェの運営
お世話
受付、ウエイトレス
運営に関する話合いに参加
認知症キャラバン・メイトとして情報提供や傾聴
会場の提供、カフェ周知の協力等
会場の提供、地域住民への開催周知等、地域ケアプラザの広報紙等へ架配への協力
地域のボランティアへ声掛けをしてもらい、当日も一緒に参加して頂く。また、施設利用者、退所者のご家族に声を掛け、参加を促している。
会場を楽しみの場所として、会話を中心として盛り上げてくださっている
会場準備・企画運営
来訪された方の傾聴やレクリエーションの参加を共にしていただいている
本人会にて見守りの手伝い、食事作り
受付準備等
折り紙をしながら、若い時の話を聞く等。コミュニケーション
認知症の当事者へ、カフェへの参加促し
共に話す。当事者が困っていることへのサポート（食べ物、飲み物を選ぶ、用意、席に持ってくる）
お茶の提供、話し相手
拠点でお茶を出す
受付、お茶・お菓子の提供、話し相手
カフェの運営全般
運営に関する話合いに参加
広報、事前準備、買い出し、当日の運営
企画、準備、役割担当
当日の会場設営、受付業務、話し相手
広報：チラシを作成、掲示板で周知
会場設営、運営、茶菓の提供、安全の確保、ゲームや歌のリード
認知症カフェ運営ボランティアが受付、ホールキッチンを担当
準備等、接待
資料配布等

地域住民への周知や対象者の発掘
運営全般
カフェスタッフ、企画・運営
会場設営、会計、茶菓子の準備、給仕等
当日のサポーターとして世話人と一緒にかかわる
相談援助、話し相手、ミニ講座、お茶出し
カレー作り、コーヒー提供、スリーA等
ボランティア
相手の立場になって話を傾聴し、その人のニーズに沿った支援へのつなぎ
介護家族、情報提供
スリーA ビンゴゲーム、歌、お茶出し
利用者へ声掛けと参加の促し
企画運営、プログラムの検討、当番、個別対応
近所の住民として顔見知りの関係を築く
参加者への接待（飲食及び受付等）
お茶出し、会場準備、受付
コーヒー担当、一緒に歌を歌う等
会場セット、お茶出し、受付、話し相手
経験を共有する、サービスを紹介する
ボランティアとして軽作業＋元介護者として家族の傾聴・アドバイス等
ドリンク、コーヒーを淹れる

その他の人の役割
理学療法士、作業療法士の養成校の学生が日々学んだことを地域貢献として実施
人生豊かな高齢層として話し相手、飲食物、菓子の準備、作業補助
事業所職員はお茶出し等
利用者との談話、脳トレ、歌のコーナーを担当
話し相手
ボランティア
企画・広報・お茶出し
地域のボランティアへ声掛けをしてもらい、当日も一緒に参加して頂く。また、施設利用者、退所者のご家族に声を掛け、参加を促している。
地域住民ボランティアが当日の会場設定、コーヒー作り、接客、後片付けまでを行う
初回参加の方のテーブルへ伺い話をする
会場準備・企画運営
コーヒーやケーキの提供
茶菓の提供、会場作り
話し相手
カフェ配膳、お客様とお話をする
広報する、報告する

手芸、子供の対応
楽しく安全に進行
講演会の時にプロジェクターの操作等
ファシリテーター
会場設営、運営、司会、年間カフェテーマの計画、手配
相談援助を行い、地域ケアプラザへつなぐ、話し相手、お茶入れ、参加者の見守り
運営の準備、広報、事務、会計、受付、お茶準備
カフェへの参加、宣伝
お茶出し、話し相手、誘導
利用者との会話、コーヒー等の提供
コーヒー等の準備、受付
企画、準備、連絡調整、介護相談等
話し相手
設営、カラオケ、受付等
相手の立場になって話を傾聴し、その人のニーズに沿った支援へのつなぎ
お茶出し、話し相手、会場準備
会の運営、利用者のサポート、見守り
カフェ実行委員会の役員及びリーダー的存在
演奏等の発表



#### 4-(20)開設までの経緯等(自由記述)

開設までの経緯
地域ケア会議等で住民の方が集まれる所が必要と感じ、地域ケアプラザの特性を活かし、相談・認知症の方、他どなたでも参加できるカフェを始めたいと思った
理学療法士、作業療法士の学生の地域貢献の在り方を考え、学生が地域を知るために必要なことを考えた時に実践したいと学生の意向もあり形にした
地域ケアプラザで行っている「介護者のつどい」の家族から認知症の家族と出かけられる、くつろげる場所が外にほしいとの希望があり、その家族とボランティアで立ち上げた
作業療法士の専門知識と地域に還元したいと考えていた学生にとっても非常に良い勉強の場となると考えたため
区内の初めての認知症カフェとして地域ケアプラザと共同開催。その後地域ケアプラザ単体開催して移行
地域ケアプラザ周辺にカフェ等の場がないため、地域の方が集える場を作るためにスタート
地域の方に居場所都市を提供したいと思っていたため
医療従事者として
地域の方が気軽に集まっておしゃべりする場所がない、認知症が増える中、理解や勉強する場所がないので地域包括支援センターやケアマネジャー等顔見知りを増やし、おしゃべりから認知症の勉強、他困りごとの相談をする場所
最初は地域ケアプラザが主体で立ち上がりましたが、現在は社協の補助金で開催
物忘れ外来に併設
地域で参加者が集まり、エリアにサテライトを開設
認知症の相談が増え、困難ケースが増えていることから
家族より、認知症カフェはないかと問い合わせあり、希望により開設を検討した
地域ケアプラザまで遠くて来られない方のために開設
地域ケアプラザが丘の上にあり、坂を上らなければならない。足腰が弱く、坂を上ることができない方が自宅の近くで居場所となることが
施設（介護老人保健）、法人（社会福祉）の地域に貢献する事業活動の一環として何が出来るかを模索する中で、カフェ開催に至る。法人内の認知症介護指導者だけでなく、一般職員が中心となって、企画・開設
認知症の人の増加。本人・家族の居場所作り
地域密着型サービスの役割として、地域の資源となれる為、施設開放し地域の居場所づくりをしたい
認知症専門施設として、啓蒙活動を行うと共に、グループホーム入居者の地域の場所作り。認知症サポーターの活動の場を提供する為
グループホーム運営をして地域貢献として出来る事を考えたこと
介護する家族の言葉によって「集える場や、一緒に出掛けられたら」という思いが地域ケアプラザに寄せられた
法人に所属する認知症キャラバン・メイトが長年に渡り、地域住民に向けて認知症サポーター養成講座を実施してきたり、法人事業とのからみから相談事が増えた
地域ケアプラザの認知症カフェのサテライトとして発足
認知症の方を担当するケアマネジャーから、主任ケアマネジャーに相談があった。ケアマネジャー支援の視点から開設。29年途中から運営を社会福祉が担う

居場所がなくなっている方が多くなり（日時を忘れてしまうため）その方の受け皿であったり、サークル活動参加者も認知症状が見られサークル内が混乱しているのを見て、お互いを知るために作った。又、地域ケアプラザ以外で作りたいと思い、声掛けをして一緒にグループホームでやっている
以前より実施して現在は家族介護教室に参加されていた方々が、再び集える（気楽に）場として開いたのが始まりでした。現在は OBOG に限らず、ご参加いただいています
独立して法人を立ち上げ「地域と共に生きる」をスローガンにしているケアマネジャー事務所として、地域の人達に気楽に立ち寄れる場所として定着したかった
認知症カフェの新聞記事をみて、近隣の方と情報交換の場を持てればと考えて、認知症の方が楽しめる場所を作りたくて
様々な形で生活にしづらさを感じる方の居場所・休息場所が必要ではないかと感じて
ホームの利用者が地域と関わって暮らしていける様、認知症の普及啓発をしたいと思ったから
認知症の方も参加できる居場所、異世代交流の場が欲しかった。
数年前に「認知症カフェ」をやってみたいという地域のケアマネジャーがいて、地域ケアプラザ・区の高齢・障害支援課の担当者と話をして始まった。言い出した人は転居したが、カフェは NPO が引き継いでいる
認知症に対する偏見（当事者、家族も含めて）がまだまだ見られることから、特別な病気ではないことを地域へ少しでも伝えていきたいためカフェを開設
認知症デイサービスを運営しているため、地域貢献
生活ボランティアをやっていて、地域に認知症の方が身近に増え、介護者に負担が多く見え認知症のことを自身も勉強し、周りに周知させ、皆で地域の雰囲気良くしたかった
地域に類似する物がないので
事業所を日々運営する中で、認知症と思われる方が増えていることを感じ、認知症の方や家族のためになるプログラムを行う時間を設けたいとスタッフの方より意見があがり実現に至った
市外の認知症カフェを見学し、必要性を感じ区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザに相談したが、何もできないため自ら開設を行った
要支援の方が来所され、昔、喫茶店をやっていたとの事でその方と共に地域交流喫茶をやりましょうと意気投合して開設する
地区には地域ケアプラザしか居場所がないため、坂の上にある研修所で開催
もし、自分が認知症になった時に、安心して出かけられる場があったらいいと。会のミーティング時に話し合いがなされ、そのような街は住みよい街だということになり、開設に至った
地域ケアプラザで開催された認知症スキルアップ講座への受講生を中心に、具体的に何か行動できないかと考えて、地域包括支援センターグループの支援の下に4か月の準備作業で開設することができた
認知症初期に役立つ情報等がなく苦労した代表者の介護経験があったため
毎月行っている家族会の食事会で、認知症の家族の様子を見て、別日にもお茶でくつろげる場があったら良いと思った
認知症カフェ養成講座研修受講者有志による運営
介護する家族からの相談を受けて地域にもカフェが必要だと感じたから
6年前に精神科医の講演会に参加し、スウェーデンには街の至るところに認知症カフェがあり、地域で認知症の人を支えているというお話を聞いたのがきっかけとなり、まずは地域ケアプラザで立ち上げました。

グループホームの地域運営推進会議の中で地域に何か
介護する家族が、サロンに認知症本人を連れて行きたいが問題ないかとの問い合わせがあった時、他にも同じ方が居るのではないかと思い、口コミで誘ったところ、賛同者があったので、認知症カフェを開設。
地域包括支援センターからの依頼
認知症になっても安心して暮らせるまちを目指しての勉強会で、認知症カフェ立ち上げプロジェクト開始(地域ケアプラザ主催の勉強会)
地域ケアプラザから民生委員へカフェ設立の協力を依頼。開設準備室を立ち上げ認知症サポーター養成講座を実施し、受講者の中から協力者を募り 25 名の協力者が得られ、3 班に分けて当番を決め、地域ケアプラザが会場を提供し運営することとなった
ボランティア団体からの提案を受けて
若年性認知症本人の活動支援（月 2 回木曜日開催）を行ってきたが、本人の状況変化により、本人活動が困難になってきたため、より自由な参加で地域にもオープンにした場としてカフェを開催
元々地域ケアプラザ内でカフェを行っていた。多世代交流サロンの利用促進と事業所の事業連携のために、地域ケアプラザ休館日に開催することとなった
個別の地域ケア会議から包括レベル地域ケア会議を進める中で、認知症やご家族のための居場所づくりが必要という話になった
介護する家族から認知症の方が集える場を作ってほしいとの要望があった
認知症の方の社会参加のきっかけ作りの場
運営主体の活動（介護者のレスパイト）から、ご本人も家族も安心して住み慣れた地域で生活するためには、地域住民の認知症への理解が無くては不可能と感じ、認知症キャラバン・メイト活動も始めた。認知症サポーターの人数を増やせても、それだけでは理解にはつながらない。ご本人も家族も地域の方もつどえる場所があれば自然な形で理解しあえると思ったから
カフェ（地域ケアプラザ）の終了で新たに始めた
若年性認知症当事者の居場所
ケアマネジャーの有志が数名いて、ほっとできる場所をつくろうとした
毎回認知症サポーター養成講座へ参加していただいている認知症キャラバン・メイトと、市内の認知症カフェを数カ所見学し話を聞いた後、地域ケアプラザとしてどのように運営していくか話し合いを重ね、プレで地域の方に参加してもらい意見をいただき、試行錯誤を繰り返し（参加者のアンケートをもとに）現在に至る
地域の薬局が商店街にある事務所を地域貢献の一環として貸してくれることになり、この地域になかった認知症カフェの開催を計画
問題行動があった方を知ってもらい地域で見守り声掛けをしてもらえるよう認知症の方と地域をつなぐことを目的に始めた
民生委員とケアマネジャーの情報交換会等で認知症の方の増加やまだ、サービスにつながらない方も多いということを聞いて
発起人の一人の家族で認知症の該当者がおり、この対応についてカフェ等の仲間が入れば気が楽になるのではないかとの発想で
地域包括支援センターから遠いため、周知広報も兼ねてカフェを開設したいと考えた。又。高齢化も進んでいたため町内会のご理解を得て、開設できた
認知症患者とその家族、地域住民の支援の場や認知症予防のイベントの開催の要望が挙げられたことがきっかけ

施設で実施している、介護者の集いへ来れない人へのアプローチの必要性。認知症の相談が増えているため
所属会社の方針を受けて
地域ケアプラザとして認知症の啓発活動の必要性を感じて
区の方針により、区内の地域ケアプラザが同時期にスタート
孤立しやすい認知症本人や家族、当該地区に多い障がい児者も含め地域とつながりの持つ場を目指して開設した

#### 4-(21)始めるにあたって課題となった点(具体的な内容)

始めるにあたって課題となった点
最初は地域ケアプラザ事業でやってほしいとのことだったが、いずれ地域の中で創出しなければいけないことを説明し納得してもらった。今は期間限定で地域ケアプラザにて行っている
地域ケアプラザ主催の高齢者対象のサロンとして運営していたが、グループホームの方等、認知症の方やスタッフの参加が平成30年度からあり、今年度から協力医の健康相談も合わせて実施するようになったから
地域の人や来てもらいたい人にお伝えしたいが、どうしたらいいかを検討した(チラシ等どこまで配布するか等)
開設運営費が予算化できないこと。介護事業者ではないので当事者やその家族への告知が難しかった。予防に興味がある元気な高齢者がアクティビティに興味を持ち参加されることが多いこと(家族同士の悩みの共有ができない)
集客、対象者
地域への開放が目的だったが、グループホームだと施設ということで抵抗があるとよく言われていた
サロンと認知症カフェの違いについて繰り返し検討した。毎月1回続けることの大切さや見守りできること
色々な年齢や認知症であってもなくても、また家族も参加できる
区との調整、認知症サポーター養成
飲食物を購入したいが、助成金では認めてもらえない
ボランティアグループの自主化、地域ケアプラザ主催からの移行にボランティアに戸惑いがあった。
相談先が分からなかった
地域住民の理解、協力をいただくために説明の時間を要した
スタッフの中で、以前に他の場所でカフェ開催に携わっていたスタッフもいたが、まず皆でイメージを共有することが課題となった。又、会場が事業所内の為、会場費はかからないが、高台にあり立地的に不利がある
来て下さる方がいるか
毎回違う企画を実施している為、主体をどうするか、先生の手配等が大変
専門職としてのかかわり方
まだ、歩いて行ける所に作っていないので、遠かったり、坂・階段などの障害により誘えない方がたくさんいる
広さがあまりないので、告知してたくさん集まりすぎたら入りきれない
周知活動が進まず、集客をどうするかという事
認知症カフェとすると誰でも参加できなくなるので、あえて言わない。特別な事はしないで、話し相手になる。認知症予防グッズを置く
「認知症カフェ」という名称に抵抗や誤解をされることは多い
「認知症カフェ」と明示した場合の反応
全員全くの素人だったので、地包括支援センターや区役所の担当部署の方々に何から何までご指導いただいた
ミニ講座は区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ、認知症サポート医等の協力を得た。お楽しみは地域住民等の協力を得た
催しを考えるのが大変だった。会場作りが狭いので苦労した

町の中心に無料で借りられる場があったので開設することができた。既設の認知症カフェを見学し、どのような場にするか、プログラム等検討を行った。主催者はボランティア団体のため、助成金などの検討を行った
地域への告知、広報に苦心したが当初は地域ケアプラザに協賛してもらい認知度が高まっていった
2014年開設当初、認知症カフェがなんであるか、専門職や地域包括支援センター、行政も理解が薄かったこと
バックアップして下さる地域ケアプラザのエリアや会場がバリアフリー、帰りに買い物もできる場所を希望していた
広報、広告などに個人の連絡先を記入すること 送迎ができないため、介護度の高い方の参加が困難、専門的な支援をできるスタッフが確保できない、有志ボランティアのできる範囲の支援活動
個人で開設するにあたり、場所の選定が非常に大変だった
不便な場所のため、送迎サービスがあれば良いと思った。助成金が必要
手伝いのスタッフの確保
「認知症」の文字を拒否する方がいて、カフェの話をしていても何をしている所か理解が及ばなかった
カフェの開設をどのように地域等に知って頂くか
カフェの内容、カフェ時間か開催回数(現在月一回、1時間30分で開催)
まず、認知症の周知を考えた
固定した会場の確保
地域ケアプラザまでの足、坂道があるため徒歩での往来が難しい
周知：開設、協力者募集(特に認知症キャラバン・メイト、認知症サポーター)→個人情報扱いのため連絡先入手困難
開設当初助成金がなかったため、手弁だった
MCIや認知症の方どなたでも楽しめる内容を検討している。参加費は、参加する以上いただくことで意見が一致し、ワンコイン100円となった
「認知症カフェ」と明示したことで、当事者以外の関心や理解をどのように促していくか
認知症カフェという名称について、賛否両論あり「サロン」と名称変更した
ターゲット(対象者)をどのように決めるのか、認知症の方だけにした方が良いのか、最初は迷いましたが、最終的に今の形にして良かったです。対象(認知症や介護している方、ご近所で気になる方、友人等、自分でも不安な方)
「地域ケアプラザ」の協力を得て開催できた
「認知症」という言葉を使わないで欲しいと初めは言われた
認知症カフェなのか、介護者の集いなのか等 地域包括支援センター職員、協力医も含め検討。協力メンバー(ボランティア)へのヒアリングをして、周知方法、プログラム決めた(医師の話の時間、「物忘れについて困っている方」、「認知症予防に関心のある方」等対象者へチラシで周知)
「認知症予防」の話が聞ける場所だと期待されることが多かった
本来は地域ケアプラザで行うのではなく、地域で場所を借りて住民主体での実施が望ましいが具体的な移行手段、方法が見出せない

## 5-(1)「現状のカフェ運営の課題や現状」について

### 認知症カフェを運営するうえで感じている課題や疑問(自由記述)

認知症カフェを運営するうえで感じている課題や疑問について
学生が毎年新しく変わるため継続を維持すること(内容やスタッフ確保)が大変である
地域ケアプラザで実施しているが参加者増、ボランティアも増えつつあり、今後の実施場所の検討が必要
地域ケアプラザが主体主催ではなく認知症の方やその家族も安心して役割を持ちながら楽しく運営できる居場所が地域が増えていくよう、まずは多世代が気軽サロンとして今年度定期的に2カ所で開催しています。そこで課題等が見えるとよいなと思っています
認知症の人に来てもらいたい、またその人達と一緒にできるプログラム
認知症の方とその家族の参加を増やしたい、実費以外にかかる費用の捻出、ボランティア等による当日運営が難しいこと
認知症当事者をはじめ参加者が集まりづらい、既存の参加者が高齢化に伴い参加者数漸減、新規掘り起しに向け今後名称を変更「認知症カフェ」の呼称を外した
認知所カフェとして運営している所との区別については問題ないが、参加者数の確保については同様に課題である
集客、告知の難しさ。講演テーマ、スタッフの確保(店舗の営業時間と重なるため)
参加者が増えて会場椅子やスリッパが不足する、医師の参加を依頼しているが、忙しいためなかなか参加してもらえない
地域ケアプラザ主催のボランティア講座から自主化を図っていて、H31.4月よりボランティアグループとして形式的には自主化をしている。実態は広報記録イベント調整等まだまだ完全に自主化しているとは言い難い。今後ボランティアの自主性を育むことをすすめていく
参加しない住民ほど、古い考え方で批判してくる。未だに認知症を学ぼうとしない
会場まで来られない人が多く、カフェの送迎はしていないので、様々な方に参加してもらうには、ハードルが高くなっている
自治会町内会に周知をする方法
認知症理解が地域住民に普及できているかどうかの問題
人数が増えた時に会場では狭いことがあるので、今後場所を考える必要があります
「認知症カフェ」というと認知症の人が行く所ととらえることが多く、どなたでも参加できますと周知してもなかなか人が集まらない
認知症カフェという名称で周知しても対象となる方は、興味を示さない。むしろ名称に抵抗感があるよう
関係者以外の一般地域住民への周知参加が中々進まない状況。事業所内のイベントだけでなく、より地域に開かれて、居場所として認知されていく為にどう取り組んだら良いか悩む
参加の人数が減ってきている。足を運んでもらうためには、どのような方法があるのか考慮中
マナーリせず、常に進化できる魅力あるカフェをつくる事が課題
地域の方が利用方法や広報(情報)が広がっていない事(ボランティアも含め)
口コミで家族の人数が増えている。対応するスタッフの数やボランティアの数が足りないことがある。ボランティアも誰でも良いというわけではないので、ボランティアを増やすことに苦慮している
年に12回の開催を目指しているが、ボランティアスタッフが集まりにくい

月一回定期的に場所を固定して開催するようになったが、必要としている方からの相談訪問は多くはない。逆に月～金で活動している居場所で、認知症及び予備軍 MCI の方との接触があり、地域の実情が見えている。なので、日時固定の意味が揺らいでいるのも事実
一人で来られない方への参加方法、認知症家族の理解（カフェよりデイサービスを重視）
地域での認知症カフェの理解度が、まだまだ低い現状で参加人数が少ない
ボランティアが増えず、当事者なのか分からなくなっている方も出てきたので
参加者の確保、病院内で行うカフェのあり方について
人数のバラつきがあるので、出欠を取った方が良いのか悩む
ボランティアの確保、気軽に来てもらうにはどうしたら良いか
新しいお客様がなかなか来られず、リピーターの方がほとんどになっている。もっと興味を持ってもらえるには、どんな周知活動が必要なのか。自治会の枠を越えることができず、地域ケアプラザにも介入できないので非常に難しい
連合町内会が広いので、遠くからや坂の上からは来られない。参加者のお住まいの地域が限られている
これからの高齢化社会、誰もが通る道として、自分事として考える人が増えて欲しい。「ああはなりたくない」「どこかの施設に入れるべき」という地域からお互い様の支えあいを、これからどのように作っていくか地域行政当事者家族で考える場が必要と思う
地域への周知がまだ不十分なこと
何故、国や行政は認知症カフェを推進し、アンケートまで書かせているのに人件費や費用は出さないのか。協力する気はあるのか。今後どうしていきたいのか。「やれやれ」といってもお金を出さないでやるところはあるのでしょうか。
町内会館は、場所的に町内の中心にあって最適なのだが、40年以上前にできたので道路から玄関入口まで急な石階段があったり、内部もバリアフリーになっていないので、やむをえず隣町内にある会場で行っているが、調査してみると会場から500m以上離れた参加者が少ない。参加者も平均57名で、4月は75名の参加があったので、会場の面積にも悩みが出てきている
参加者が集まりにくい→広報や告知が心配
認知症当事者の方やそのご家族に来ていただくための工夫
認知症予防カフェでもいいのか
ボランティアの高齢化。衛生面での指導が厳しい
開催場所までの送迎、認知症状があると来ることが難しい
継続することの難しさ。「いつものことに対する安心感」と「マンネリ化」の兼ね合い。スタッフの高齢化（家族の問題も含めて）。安定した場所の確保。今後、「お客さん」ではなく、一参加者としてみんなで作るカフェという方向に持っていくための働きかけ方
未だ認知症の方及びその家族の方の参加はまれなので、認知症に関する知識のさらなる習得や具体的対応フォローについて継続的にスキルアップを企てていく必要がある。現在、障害のある方が若干名定期的に参加
活動6年目になり介護者の状況や本人の症状も変化（入所逝去9等でカフェに来れなくなった）。カフェの数は増えたが予防やコミュニティカフェも多くマッチングが適正になっていないことがある。介護者は「情報」も欲しい
担い手の年代を考えると先々に不安がある
ボランティアグループの運営のため、認知症カフェという言葉を使ってもよいかや、自立した運営の必要性はわかるが、もう少し公的な後援の下という言葉の支援が欲しい



地域の民生委員の認知症とカフェに対する理解が乏しく協力が得られない 地域における認知症当事者の把握が困難
地域の方々、ボランティアの方のおかげで運営できている事を感謝しています。私共は、大変恵まれた環境にありますが、何をやるにも資金が必要です。もう少し簡単な手続きで、助成金を頂けるようになると助かります。講師やボランティアへの心ばかりの謝礼、送迎サービスの充実も課題です
3年目に突入し、定着しつつあるものの、新規の方が集まりにくい。場所が手狭であり、広い所を確保したい。認知症の方の参加が少ない
本当に困っている認知症、ご本人、その家族の参加が少ない為、広報だけではなく、困っている方に直接働きかけが必要と思います
認知症の方の参加者が少なく、認知症の普及啓発となるような内容が行えていない。地域包括支援センター内の他の職員からはそこを改善すべきと言われていたが、現在ボランティアが主体となって運営を行っているため全体への周知が難しい（主体性を失ってしまわないか心配）。ボランティアが参加者の中に入って話をしないのでボランティア同士の交流の場になってしまっている
認知症に関連する参加者が少なく認知症カフェとして機能していない
プログラムに参加者皆が参加できるランチづくりやおやつ作りが（特に女性のご本人の体験が生かされる、介護者のご主人にとっては料理のメニューを広げる場）楽しいが、会場の確保が難しくなっている
認知症のご家族の参加者がいないため、周知を図っていく必要がある
認知症の方やご家族のための居場所になっているか
認知症の進んだ方の参加につながらない、認知症という言葉を嫌がる家族がいる
区内に開催日が重なるカフェがあり、参加者は連日になる月がある。できれば、開催日が近くならないようなお互い情報交換ができること
参加者が楽しく過ごせる内容について
参加者が増えない、認知症カフェの理解、関心を持ってもらうのが難しい
参加者が集まらない、家族同士の交流ができず次回参加につながらない、障害支援カフェを借りての運営であるため、落ち着いて相談する雰囲気ではないと思われる
だれでも気軽に参加できる場、色々な人が混ざるよさを大事にしてきた。その分、参加者の幅が広がりプログラム内容を考える時に工夫が必要。認知症の人を受け入れているが、認知症カフェという名称を使わず「サロン」とした。認知症の人につなげるには地域ケアプラザ地域包括支援センターや近隣のケアマネジャーとの連携が必要
「認知症」に対する社会的評価は、いまだ閉鎖的であり、本人及び家族も含め対外的にオープンな状態になれない、なっていない。今後の課題として、行政を中心として誰でもがオープンに集まれ、交流できる場所&提供及びスタッフをそろえて、家から出られる体制と広報をしっかりとやってほしい
ややプログラムの内容がマンネリ化している
参加メンバーより、「フリートーク」の時間を大切にしたいという声があったので、フリートークから参加者の話したいこと、聞きたいこと等を聞き出して、まとめていくこと。参加者が多いと大変だなあと思う時があり、担い手の育成を頑張っていきたいと感じます
認知症の当事者もそうでない人も一緒に楽しめる内容（プログラム）にするにはどうしたら良いのか。地域のサロンやカフェとの違いをどうやって作るのか
人数が増えてきたときのグループ分け対応

## 5-(2) すでに取り組んでいる課題に対する工夫の内訳

認知症の人や家族に周知する方法
介護者のつどいでのチラシ配布
地域のケアマネジャー会議がある時に周知、呼びかけ
ケアマネジャーに直接、ケアマネジャー連絡会を通して
市内認知症診断治療を行う医療機関リストをもとに区内病院にチラシ配布
地域ケアプラザの立地上通うことが難しい方もいるため、各自治会、町内会館での出張開催を行う
薬局利用者へのチラシ配布
地域包括支援センターやケアマネジャーへの声掛け
地域ケアプラザを通じて
物忘れ外来時アナウンス
チラシ・回覧
チラシ作成、地域ケアプラザの広報誌にも載せて周知している
現在は電話をする
参加している家族から新しい家族への口コミで参加が増えた
相談等でお近くの方がいらしたら、個別にご案内する
相談に来られた方への個別の周知
地域包括支援センターや民生委員との連携を強化して、届けていく工夫が必要か
デイサービスやケアマネジャーにチラシを配布
地域包括支援センターやケアマネジャーの会の周知
たまに地域に向けたイベント的な啓発の機会を設けることが、周知につながると思われる。いつでも相談に乗れる開かれた場所であることを、アピールしていく
相談の時の周知、周りのケアマネジャー事務所にチラシをお渡しし、一緒に運営側で参加してもらっている。ボランティアの 口コミ
外来患者、入院患者家族への周知
毎月の一言通信で家族に周知
同法人の色々な施設に声掛けをしている
地域ケアプラザ・老人会・自治会などに広報する
介護の相談・申請等の時、必要に応じて案内。地域のケアマネジャーへ案内
チラシ作成、他機関への配布
開催のチラシを毎月町内回覧で回覧している他に、個人的に気になる人に個別配布している
地区自治会への回覧を依頼
ケアマネジャーや居宅介護支援事業所へチラシを持参し周知
地域ケアプラザにチラシを置かせていただいている
口コミ チラシの掲示、地域ケアプラザからの個別連絡
地域ケアプラザで実施中のミニデイ及び家族会への紹介
区広報紙、地域ケアプラザ広報紙、SNS,他の家族会、カフェに参加
区の認知症ガイドや各地域ケアプラザ、認知症サポート医からの紹介
チラシの配布
手作りのぼり旗の設置、地域のふれあいバザー参加
チラシを使って説明する

地域会合での周知、地域掲示板・回覧板の活用
認知症を発症している家族がいることを表に出したくない方が多く、口コミで開催を周知している
相談があった際にチラシを渡す、民生委員児童委員協議会や居宅介護支援事業所へ配布
アンケート形式で必要性を含めて周知を考えている
家族会のホームページに掲載
運営推進会議にて、グループホーム入居者家族に周知
ケアマネジャーへお知らせ、相談が入った時にお声がけ
ケアマネジャーが担当している利用者に説明している
窓口での相談や、認知症サポーター養成講座受講時に案内する
ケアマネジャーや地域包括支援センター職員から利用者や相談があった人たちへ紹介してもらう
地域ケアプラザの担当窓口で声をかける
毎月発行の広報紙（全戸配布）やチラシを掲示
民生委員、地域ケアプラザの介護者の集いでチラシを配る
各地区にケアマネジャー等専門家も充実して来ていますので、定期的に（週1、月1回）認知症家族が集える場に連れ出すコーディネートを作る事
ケアマネジャーにお伝えする
地域包括支援センターへの相談時。ケアマネジャーへの協力依頼
ひとつ通信紙（事務所からの発信ツール）
地域ケアプラザの相談窓口で紹介する。協力医のクリニックで紹介する
院内へのポスター掲示、参加者への次回案内チラシ
総合相談で直接声掛け。当区別養護老人ホーム併設のため、ショート利用の家族にチラシ配布

地域の人に周知、広報する方法
地域ケアプラザ利用者へのチラシ配布
チラシや学園祭、自治会の活動に参加し伝えている
地域ケアプラザ広報誌、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会
チラシ、広報紙、自治会、老人クラブ、各種活動等の出張PR
近隣の3町内会合同長会で紹介、広報依頼するとともに認知症が疑わしい人の誘い方等意見を聞いた
地域ケアプラザの立地上通うことが難しい方もいるため、各自治会、町内会館での出張開催を行う
自治会と民生委員に協力して頂き広告を出してもらったり近くのカフェに行き顔を覚えてもらう
地域高齢福祉課へのチラシの設置
参加者の口コミ
町内での回覧、掲示だけでなく、周辺の商店にチラシを掲示
地域包括支援センターとの連携、合同イベント
チラシ・回覧
老人会、食事会、イベントで広報している
町内会たより等に掲載
事業開催チラシを地域に掲示する他、地域ケアプラザの広報紙等でも周知をする
地域ケアプラザ広報紙などを活用した周知、会場のカフェでの周知
地域密着型事業所の運営推進会議で発信。自治会・近隣店舗等へチラシ配布

自治会でチラシ掲示、民生委員の集会で説明
看板、地域ケアプラザにチラシを貼り出し、又は置いて頂いている。
回覧版、居宅ケアマネジャーや認知症キャラバン・メイトによる口コミ
毎月情報誌を発行していく
広報誌、チラシ
チラシ作成、各自治会・町内会掲示板に表示
たまに地域に向けたイベント的な啓発の機会を設けることが、周知につながると思われる。いつでも相談に乗れる開かれた場所であることを、アピールしていく
民生委員による、チラシ
ボランティアの口コミ。地域ケアプラザの広報誌に毎月載せる。地域の掲示板に貼らせてもらっている
地域ケアプラザ、ホームページ
ポスター、玄関前の立て看板
町内会の回覧版。バス停や郵便局の掲示
連合町内会にチラシを配り、掲示してもらう
ホームページ・フェイスブックなどの SNS を活用する
地域ケアプラザの掲示板で案内。他施設などへもチラシを貼っていただく
チラシ及び掲示板
定期回覧と年に一度、運営委員で地域の人と小学校の4年生向けに「認知症サポーター養成講座」を開催している
地区自治会への回覧を依頼
回覧版、掲示板への掲示
チラシ配布、声掛け
地域で開催しているサロンで周知活動をしている
口コミ チラシの掲示、
町内会で、開催チラシを掲示と町内回覧
人材バンク、社会福祉協議会
口コミ、区の広報で紹介
チラシの配布
連語自治会掲示板へポスターの掲示、区役所へポスター掲示
地域ケアプラザでの催しに参加、説明
地域会合での周知、地域掲示板・回覧板の活用
介護施設の敷地内の掲示板に貼付したり、郵便等でお知らせしている
地域ケアプラザで広報誌をファイル等にまとめて、閲覧用にラックに入れてある
回覧版、広報掲示板、のぼり旗
民生委員児童委員協議会でチラシを配布、広報誌へ掲載
ケアマネジャーへの周知
定期的に広報誌に情報を掲載、民生委員に情報を伝え周知してもらう
地域ケアプラザニュース 回覧、掲示
地域ケアプラザ広報紙、民生委員への呼びかけ、
町内広報誌に掲載してもらっている

地域ケアプラザ内にチラシを配架、広報誌へ掲載
地域のサロンや体操教室、町内会の集まり等でチラシを配布し紹介
広報誌等に掲載する、民生委員に声をかけ参加してもらう
毎月発行の広報紙（全戸配布）やチラシを掲示
各自治会に依頼し、ポスターを掲示板に貼付
回覧版、掲示板に貼ってもらう
民生委員会議、町会掲示板、居宅介護支援事業所へFAX
ひとこと通信紙（事務所からの発信ツール）
チラシ、ホームページ、広報紙
近隣のスーパー、ドラッグストアにチラシ配架
回覧、広報紙を活用

運営側の人材育成の方法、協力者の募集
教員から学生に声をかけ促す
認知症サポーター養成講座
民生委員児童委員協議会での協力
ボランティア会を募った
作業療法士を目指す学生全員に認知症サポーター養成講座を受講させ、ボランティアに参加してもらっている
各自治会、町内会に一人ずつ認知症キャラバン・メイトを増やす
地域の方にボランティアとして活動して頂いている
社内への声掛け
チラシへの掲載や声掛け
地域ケアプラザ広報誌、SNS、区ボランティアセンターだよりにボランティア募集を掲載。自主性を育みたいので、地域ケアプラザの支援をしすぎないようにしている
専門学校に依頼
会場を貸して下さる施設スタッフへ協力をお願いし参加してもらっている
施設に入っているボランティア達に広報・声掛け「いきいきポイント」の付与
ボランティア対象に講座案内をする（スキルアップ講座）
社会福祉協議会や居宅介護支援事業所ケアマネジャーからの紹介
近隣の事業所への協力依頼
たまに地域に向けたイベント的な啓発の機会を設けることが、周知につながると思われる。いつでも相談に乗れる開かれた場所であることを、アピールしていく
勉強会の開催
認知症キャラバン・メイトを呼んで、オレンジリング研修を実施した
地域交流の重要性や認知症の普及啓発の意義を会議等で伝える
カフェのチラシに協力者募集も書く
地域ケアプラザのボランティア講座との連携
開始前にボランティア講座を開催
デイスタッフのボランティア及び法人内での募集

関連図書の購入と関連他カフェへ参加し意見交換したり、専門家と会合を持てる時は積極的に参加する。又、ホームページも使用する
よこはまシニアポイント受講を促している
チラシへ募集を掲載、様々な場で呼びかけ
スタッフの認知症関連の知識習得のため、各種セミナーの受講
新聞やTVで当月話題になった情報について全員で共有
養成ボランティア講座への参加
施設見学や後援会に出席
地域の方々との良好な関係から
年一度程度、病院や地域ケアプラザの協力で講習会開催。協力者は広報で募集
研修参加、他認知症カフェの見学
年1回程度研修（勉強会）を開催
オレンジパートナーへの呼びかけ
掲示
地域介護事業所への声掛け
参加者へボランティアしてお手伝いをお願いしている
地域ケアプラザで行うボランティアのスキルアップ講座への参加
認知症サポーター養成講座の際に「協力してもらえますか？」というアンケートを配ってやってみよう方を集めている
オレンジボランティアのリストから直接声掛け、ボランティア同士の口コミ
相談対応ができる職員がおもてなしを行う。そして、毎回アナウンスを行っている

継続的に運営する方法
クラブ、サークルの形態にし、費用についても援助が得られるようにしている
安心して参加できる 参加する楽しみを皆で作る 一人一人の気持ちや意見を大切にす
自団体の募金に応募した、その他補助金に応募を検討
スタッフとの打合せや共通理解
ボランティアのモチベーション維持のため、カフェの時間にあった相談内容について、振り返りでフィードバックしている。施設入所者の参加が、毎回10人以上あるので、安定的な収入のブースとなっている
外来に併設
スタッフの一本づり
施設やスタッフに負担がかからないように日程を考える
毎回カフェ終了後にボランティアと反省会を行う。3/年ボランティアと話し合いを行う
カフェ開催日の前日に会場へ連絡し、開催の協力をお願いしている
事業化して年度の活動計画化する。運営に携わるスタッフを委員として編成し、固定化する
年2回開催者全員で今後の話し合いの場を持つ
地域ケアプラザの職員のかかわりを増やす
スタッフ会議の実施

たまに地域に向けたイベント的な啓発の機会を設けることが、周知につながると思われる。いつでも相談に乗れる開かれた場所であることを、アピールしていく
スタッフも楽しむ、資金確保
院内で委員会として活動している
日時の変更をせずに、とにかく開催する
毎月第3水曜日を開催日と決めている
所属法人へカフェの状況報告をする事
スタッフが大勢いて、誰が休んでも OK
コミュニティカフェ等、日常的に使える場所を確保する
地域ケアプラザの事業として行う
マンネリ化しないように、講師やアトラクション依頼者と早めに打ち合わせし、プログラムを早めにつくり、全運営委員で目的、内容を吟味する
ボランティアが楽しくいてほしい
プログラムの工夫
しっかりとしたリーダー格のボランティアがいること
近隣と医療機関との連携
スタッフのチームワーク、毎月2回ミーティング
参加者からの口コミで知り合いを勧誘、また夫婦での参加を促している
日時や場所を固定する
スタッフのコミュニケーション
ボランティアの確保（募集、声掛け）
無理をせずできる範囲で行う
自然な気持ちでゆったりと、運営側も楽しむ
カフェスタッフの組織化
ボランティアが運営主体となっている
振り返りの会を実施している
民生委員と連携をしている
ボランティアの勉強会の開催
事前打ち合わせで、どなたでも楽しく参加できる内容に気を使っている。アンケートを実施、参加者の声をきいている
開催月の定型化（毎月第4月曜日午後1:30より）催し物、出し物等ルーティン化をしている
毎月25日と日を決めて、会場を押さえた。
担い手の育成
定期開催（会場の年間予約等）
定例開催と運営会議

参加できない人が参加するための工夫
新たなプログラム（歌等）先生と調整中
認知症のボランティアは忘れてしまうため、家族の声かけ、民生委員や地域住民の訪問で参加できている
社会福祉法人の地域貢献活動一環での送迎
送迎をつける
人に数回コンサートや落語など認知症の人を誘いやすい内容にしている
地域ケアプラザの立地上通うことが難しい方もいるため、各自治会、町内会館での出張開催を行う
認知症 <b>予防</b> カフェという名称にしている
プログラムの変更
今後、自力で参加が難しい人の場合、送迎等も検討必要となってくるか
近所の人と一緒に来てもらえる様に声掛け
ケアマネジャーなどに最初は付き添ってもらう
たまに地域に向けたイベント的な啓発の機会を設けることが、周知につながると思われる。いつでも相談に乗れる開かれた場所であることを、アピールしていく
民生委員による
時間・曜日の検討
送迎をする
車いす、リクライニングの車いすの方も参加できるような環境
坂が多いので、坂の上の方の人（お年寄り）を誘えないのが残念
はがき・DM等、直接情報を伝える工夫
早めにスケジュールを周知し、開催日が近くなったら再連絡する。又、車で送迎するケースもある
仲の良い人が連れてきている場面がある
地域ケアプラザなど関係機関からの声掛け
対象地域が広いため参加できない人向けに、出前講座を開催を検討
一人での参加が難しい場合、家族へ相談し会場まで送迎してもらう
口コミ
民生委員や訪問介護、送迎サービスとの連携
地域住民の方の積極的な声掛け
ボランティアセンター等に協力要請し、利用者からの送迎だけでもいい、家族の負担を減らす
状況により送迎も考えています
グループホームスタッフに協力していただき入居者も参加できるようにした
TEL がけ
送迎
認知症が疑われる方に対しては、当日の朝電話しお迎えに行ったりしている
コミュニティバス、送迎ボランティアの紹介
当初は元気だった方も足腰が弱り、送迎も始めた
一番悩ましい問題である。足の問題（バス及び徒歩に参加）、送迎バス、車等の利用できれば、参加料増加を見込める
地域の事業所に依頼して送迎をしてもらっている
直接スタッフが自宅にお迎えに行っている



参加しやすい雰囲気を作る工夫
学生が出迎えたり、一人でやることがないよう楽しく感じていただけるようアンケートを取りながら工夫
参加無料、出入り自由、参加しやすい雰囲気を作っている
申込を必ず必要とせず、連絡先を博する程度にする。参加者が楽しめることを実施
ケアマネジャーを巻き込んだプログラムの検討
環境設定
申込が必要ない
グループホームだと認知症の度合いが重度すぎると思われるため、2階を音楽療法にして1階をカフェにし、地域のどんな人でも来られるようにしている
挨拶、履物に名前クリップ、皆の意見を取り入れる
多くの職種に声を掛ける。チラシの工夫他
申込不要とし当日はスタッフが参加者の様子を見ながら声掛けや雰囲気づくりを行う
参加申し込みなくても、良いことにしており自由である事
カフェらしくする（施設っぽくならない）ことを大切にしている。スタッフが私服、ジャズを流す等
テーブルの位置の工夫
旗と看板を出し「御自由にどうぞ」等、わかりやすい工夫をしている
認知症の方が決められた時間（短い）に出て来る事の大変さを感じているので、AM10:00～PM3:00まで自由参加にしている
新規の人には、同じ境遇の家族が話を聞く
コーヒーを飲みながら、レクレーションや歌をうたう
たまに地域に向けたイベント的な啓発の機会を設けることが、周知につながると思われる。いつでも相談に乗れる開かれた場所であることを、アピールしていく
参加型の楽しい会
少人数で、話しかけやすい雰囲気づくりをしている
“ボランティアも参加者さんもみんな講師”をスローガンに皆に話してもらおう機会を作っている
リハビリスタッフによる体操を取り入れ、和みやすくしている
生演奏
カフェに携わる全員が新しいと思える様、少しずつ変化させている
スタッフが仲良い事。一人の人には話し相手になること。名前を覚える
カフェ等、日頃から誰でも出入りできる場で開催する
音楽や体操のコーナーを設ける。専門職の案内をする。ボランティアが積極的に話しかける
各机に小さな生花を飾っているが、当月が誕生月の参加者にハッピーバースディを歌いながらプレゼントしたり、盛り上がっていないテーブルには運営委員が座りなおす
あえて大きく「認知症カフェ」と明記しない
地域の方が地域の方のために作り上げていくと雰囲気が良くなる
申込制はせず、出入り自由
認知症&予防カフェとうたうことで、認知症を特別視しない。予防を重視している
明るく楽しい雰囲気づくりに注力して、室内の装飾、お花やステッキホルダー等を準備している
福祉用具の展示、看護師の学び、理学療法士実技、マンネリ化しない、色々な視点の企画

認知症の方と同じ出身地のスタッフや参加者がいると故郷の言葉で故郷の話をして楽しいと感じてもらう
身のコンサートの企画、介護相談の受付
明るく楽しく
時間や内容について、四角四面に考えない
アクティビティを強要せず、お茶を飲み、のんびり過ごし、家族・知人で困り事があれば、相談員と話せる状況をつくる
認知症に関心のある人でしたら、年齢問わず OK
初回参加者や一人での参加者には地域包括支援センター職員やボランティアが対応
参加者数に対してスタッフを多めに配置
プログラム実施前後のミーティングで、スタッフでアイデアを出している
一人一人に声掛け 居場所づくりに注意している
スタッフやボランティアを増員 朝、電話で呼びかけ、入り口付近でお迎えする、きめ細かい対応する等の工夫
地元の方に受付をお願いする
季節の飾りつけ、お茶、お菓子
予約不要、出入り自由
申込不要、料金無料にしている
一般の利用客もいる食堂の一部での開催
テーブルの花や音楽を流して雰囲気づくり。各テーブルにボランティアを配置し、参加者が手持無沙汰にならないように心する
パン販売を行っている

## 6 認知症カフェの効果

認知症の人への効果
毎日の実施を楽しみにして下さり近所の方も一緒に来られることもある。
交流ができて、会話が弾んでいる
なかなか外出の機会がない人を誘うきっかけとなっている
外出先が増えた。当日朝から楽しみにしていると家族より。家族と別の場所で悩みの聞き取りをしようとするとは最初はお互い気になって離れることができなかったが、手作業することによって集中し家族と席が離れても大丈夫になった
顔つきが明るくなった。身なりを気にしておしゃれになった。
笑顔がとても良い
サービスの利用につながりにくい若年性認知症の方でも、カフェなら若い世代の参加者もいて参加しやすい雰囲気、専門職による見守りもある。若年性認知症の方の社会参加の社会資源となっている。
笑い顔が増えた
歌を歌ったり、体操するイベントの時など参加され、楽しく過ごしてもらっている
月一回の楽しみになったと言ってくれた
参加することへの楽しみがあるようです。（参加者同士の交流）
定期的な集いの場で他者との交流ができる
得意なハーモニカを披露する等、利用している事業所での生活と、また趣が違った雰囲気喜んで帰って頂いている。
話をする機会が増える（当日はボラさんとよく話をしている）
地域の中で活動に参加できる
デイサービスとは違う地域の方々がゆっくり話を聞くことで、発語が増えたり、カラオケで声が出せたり、いろいろな家族との話の輪に入れる
楽しかった。次回も参加したいとの声
固定日（毎月第2金）特定でなく、月～金まで開催しているカフェ・ランチに集う地域住民同士の関わりをみていると、自然に認知症の人、その家族、MCIの人たちへの配慮が生まれているのが感じられる。要するに毎日の活動の中でのお互いの気付きを支援していければ、住みやすい地域につながると考えるこの頃です。
外出の機会が増えた。人の中に加わることで、笑いや表情が明るくなった。
専門職と顔見知りの関係となり、サービスにつながった。お互い助け合っている（お茶、お菓子を運ぶ、持ってきてくれる）
一緒に歌をうたえた。楽しく笑えた。会話を楽しめた。
出掛ける機会につながられたということ。
人と話す事が嫌だった認知症の方が、何回か通ってくるうちに、場所にもスタッフにも慣れて、良くおしゃべりするようになり明るくなった。
定期的に出掛ける場所ができたことで、生活に張り合いができた
出かける場所、地域の人と交流する場所
毎回楽しみにしてくれる認知症の人が居る
来場を楽しみにしている方もできた。
毎回、出席して下さる方を見ると楽しそうです。

料理やお菓子作り等、普段自宅ではできないプログラムをすることにより、新たな刺激を得ることにつながっている。
健康な方が MCI と診断を受けてからも変わらず来所している。毎回、状態や状況を確認できる。
社会参加 喜怒哀楽が感じられる。他者との交流
「死にたい」と切実なおもいを抱えた方が、認知症カフェの参加を楽しみになり明るくなった
たまに参加してもらおう程度のため把握が困難
本人が参加の場合、回想法に効果がある
回数を重ねるたびに表情が明るくなった
明るくなって笑顔が増えた、手伝いも喜んでやってくれている
家に閉じこもらず、意欲がでてきた。カフェの事だけは覚えている。
地域の皆様とのより深い顔なじみの関係が出来始めていると思う
その場だけのこともかもしれないが、お茶を飲み、他の人と接触・会話することで、明るくなる方もいた。
毎回楽しみをもって、参加してくれるようになった
デイサービスにつながらない人が家族の送迎で参加することで交流の機会を得ている
参加者の状態によるが、小さいグループなので、コーヒーを入れる等の役割をもつことができる
レクリエーションを工夫することで、楽しみながら笑顔で活動されていた。
ゆっくり過ごしていただき、笑顔が見られる
とても楽しみにしていて、定期的に参加している
カフェ参加を契機に介護保険申請、サービス利用につながった
笑顔になれたこと
おしゃべりの最中、参加者からの脳トレのすすめで心身の活性化や予防への前向きな参加意識を持つ人が増えた→楽しかったとの声が聞かれる
毎回顔を出してくださる方も増え、楽しみにしてくれている。スタッフや利用者同志で交流が深まっている。
家族の方に安心して来ていただけるので、本人も安心して参加していただけている。
介護予防、居場所の提供、相談の場
コミュニケーション、地域交流
外出の機会、人と接する機会となっている。歌を歌ったり、若い頃の話をすることで、居心地の良さを感じてもらい、次回につながっている。
出かけて地域の方と交流する時間が持てるようになった
定例開催で参加者お互いに気に掛けるつながりを作れた。「今回はあの方来ないのかしら、心配だわ」
サービス利用につなげる為に、家族の協力の元、カフェにてケアマネジャーとの交流に活用した。

地域住民への効果
自治会の高齢者が集まるような会にはお声がけをいただき企画も一緒にやるようになってきた。
「いろいろな方とおしゃべりができて楽しい、グループホームの方も安心して楽しく来てくれるのが嬉しい」との声が聞かれた。参加することで皆が楽しめる。
少しずつ参加者も増え、誘ってくれることもある

町会や民生委員の方からも認知されるようになった。民生委員の方から認知症に関する催しのチラシが持ち込まれるようになった
ボランティアとして活動している方が、生活支援体制整備事業で立ち上げたボランティア団体の中心メンバーとして立ち上げからかかわっている
認知症の専門介護があることを知ってもらえてきている
毎回楽しみに来て下さる方や、カフェでのワークを家でも楽しみたいと方法、材料などを学んで帰られる方もいる。認知症予防に意欲的。
受付の作業になれ、参加者への配慮や顔見知りとなることができた
予防や楽しみになっている
高齢者に好評
安心感
認知症の理解が深まった。
施設の中の雰囲気味わってもらい、交流する場になっている
集いの場として定着しつつあり、活用していただいている
集いの場として定着しつつあり、参加者が固定化している
数は少ないが、ボランティアでお手伝い頂けている人もいる為、カフェを通じて他人事ではなく身近な話題として実感して頂けている。
子供から高齢者まで、多世代の交流の場となっている
近隣の方から聞いたと来訪された
介護する家族の実体験を聞くことで、認知症の実態やご本人の理解につながっている。町で出会ったときに挨拶できる関係になっている
認知症について、勉強したという人が参加
固定日（毎月第2金）特定でなく、月～金まで開催しているカフェ・ランチに集う地域住民同士の関わりをみていると、自然に認知症の人、その家族、MCIの人たちへの配慮が生まれているのが感じられる。要するに毎日の活動中でのお互いの気付きを支援していければ、住みやすい地域につながると考えるこの頃です。
外出機会、おしゃべりの場
ポスターや玄関の看板を見て、近隣の住民が興味を持って参加してくれた。
認知症、グループホームについての理解が広がった。
知らない者同士の席へ相席して、楽しい雰囲気を作ってくれる。
ボランティアの活躍の場が提供できている
カフェで友達が増えたり、口コミで来るケースも多く見られる。
認知症の方との自然な形での交流を目指しており、各種プログラムを通して、それができていると感じている。
新しい集まりの会ができた（歌の会）
参加者同士、声を掛け合ってサロンや他のサロンに参加されている
自身の学びや、MCIの方の参加の手助けをしてくださる
地域交流の場として役に立っている。参加者から町内への声掛けが拡充している

認知症の理解（症状、検査、薬等）や介護情報など知識を深め役立てることができた
いずれ自分もと思うとよい学びの場であると定期的に参加されている
高齢化率が高く、外出のきっかけ、顔見知りが増え、予防効果につながる
利用者に対して自然な対応ができています
認知症に対する理解と認知症になっても安心だという気持ちが生まれた
認知症の人への理解に繋がっていると思う
月一回が定着している為、次回を楽しみにして参加して下さっている
毎回楽しみをもって、参加してくれるようになった
実際に認知症の方に関わることで理解を深めることができた
認知症の方を支援しようとする意識が高まった
認知症カフェがあることで安心感がある
ボランティアの横のつながりができたようである
友人を誘って来所してくれるようになった
周辺症状のある認知症の方を地域住民へ紹介したケースでは、その後本人への声掛けなどしてもらえるようになり苦情も少なくなった
認知症を身近なものにとらえ、さりげなくサポートする人もいます。
他にサロンや脳トレの集まりもあるので、こちらとの違いを説明、理解してもらい、たまには交流もしています。
認知症について、学習する機会となっていると思う。
認知症啓発、情報収集
コミュニケーション、地域交流
認知症に関するミニ講話で知識を得、予防につながっている。直接認知症の本人、ご家族に接することで、認知症の理解が深まっている。
認知症の方と接して、サポーター養成講座で学んだことを実践できる
他のカフェやサービスの情報を持ち寄ったり、知らせたりすることが増えた
顔なじみの方がいます。

家族介護者への効果
認知症当事者も楽しみにしており、朝からテンションが高いが、自分のためにここに来ているとおっしゃっていた
カフェ参加を通じてケアプラザとつながった方もおり、閉じこもり予防としての効果が出ている 認知症キャラバン・メイトの定期的な活動の場として提供
介護についての相談有
楽しかった、勉強になったと喜んでもらっている
同じ立場の人との交流は、安心につながっている

分かり合える人と出会う場所
ピアカウンセリングのように、お互い様の介護を話し、癒される場になっている
介護者同士の普段「怒ってしまった時の対応」や「同じ行動をとってしまう本人への対応」に困っていることについて気持ちを共有でき、カフェ以外での交流もされているようです。
介護している方の息抜きできる一時となっている
介護者同士が情報交換、悩みを共有できる場となっている
いつもの施設と少し違った雰囲気の中で一緒に過ごす時間が持てている。逝去された方のご家族が、施設にまたボランティアという形で関与してくれている。
家族の気分転換（家族の愚痴を傾聴）
お互いの話をする事で、共感することや、先々の悩みの解決が図れる
楽しかった。次回も参加したい。少し楽になった等の声
固定日（毎月第2金）特定でなく、月～金まで開催しているカフェ・ランチに集う地域住民同士の関わりをみていると、自然に認知症の人、その家族、MCIの人たちへの配慮が生まれているのが感じられる。要するに毎日の活動の中でのお互いの気付きを支援していければ、住みやすい地域につながると思うこの頃です。
医師を含め、専門職からの助言など、地域ではあまり聞けない話ができ、満足してもらえている。
入居しているご家族様が得意とするピアノを演奏し、一緒に参加してくれた。
認知症本人と介護者、双方が笑顔でいられる場を提供できたという事
日頃、話せない悩みを共有する場になっている
出かける場所のひとつ、専門職と話す場のひとつとなっている。
専門家へのレポートで話を希望する人も出てきた。
家族にとって、余暇を過ごす時間を提供できている。
本人の笑顔が増え家族がほっとでき気持ちが楽になった
認知症の理解や介護情報など知識を深め約立てることができた
同じ立場の人と話せる場であり、とても楽になったと喜ばれる。認知症の家族と気兼ねなくコーヒーを飲みに来られるリフレッシュの場となっている サポート医に相談ができ安心につながった。
引きこもらず共に楽しい時を過ごすことができ、次回を心待ちにしてくださっている
喜んでもらっている
カフェのある安心感→家族も相談できる場
毎月、ご家族が参加して下さり、ご家族同士（共に男性介護者）のお話が弾んでいる
本音で話し合いや相談や情報入手が出来るようになった。
聴いてくれる人や、相談者・仲間が増え、気が楽になったとの声もあります
介護者や介護を卒業した家族の交流息抜きになっている
本人の状況や家族の悩みについて介護経験を生かし一緒に考え情報交換が出来る
気軽に相談できる場の提供

相談をする場があることで、安心感がある
介護を経験している者同士だから、何でも話せる。また、わかってもらえる安心感から、心のリフレッシュにつながり、介護についての情報交換の場にもなっている。
同じ悩みを持っている人と交流できること
家族にとっても楽しく過ごせる居場所になっている
楽しそうに帰宅する本人をみて、助かっているとお声がある
スタッフ等とも顔なじみになり、大事な息抜きの間と云ってくださっている。
本人と家族を分離し、家族に寛いてもらっている。
リフレッシュの場。愚痴が言える。視点を変え、笑いにも変える。情報収集。
コミュニケーション、地域交流
定期開催により、家族間のピアカウンセリングができています。医師を含めた専門職からミニ講話やアドバイスが聞ける→ストレス軽減
カフェの中で心情を吐露や、発散できるようになり、表情がやわらいだ
若年性認知症の介護者同士が当カフェを通じて知り合えたこと。積極的に情報交換している。

専門職等への効果
学校独自の大切な地域貢献となった。
さまざまな関係機関や職員間での連携が図れる
他団体との連携により様々な情報が得られ勉強になっており楽しみでもある
いろいろな相談事が、早期発見、相談、必要なケアへつなげられている
地区高齢者の把握
地域の高齢者実態の把握
疾患に対する理解と知識が深まった。
居宅のケアマネジャーには自分の利用者を連れて参加してもらい、一緒に楽しんでもらう。様々な方が参加することで、運営の工夫をする。
地域の情報を得ることができる
地域の情報を知る事ができている
施設の中でサービスを提供するだけでなく、違った場面で当事者・家族等とコミュニケーションする難しさ、大切さを実感。
家族等の話を聞き、生活環境や精神的支援の必要さなどを確認できる。
デイサービスで見せる表情とは別の顔が見られる。また、ゲームなども認知症の方がどうやったら参加できるか工夫ができる。
固定日（毎月第2金）特定でなく、月～金まで開催しているカフェ・ランチに集う地域住民同士の関わりをみていると、自然に認知症の人、その家族、MCIの人たちへの配慮が生まれているのが感じられる。要するに毎日の活動の中でのお互いの気付きを支援していれば、住みやすい地域につながると考えるこの頃です。
援助が必要な方を発見できる。相談できる。
地域の方、当事者の方と知り合い、お互いを知れる。
認知症サポーターへ興味を持ってもらえた。



2025年問題等、現状だけでなく、「介護のこれから」を話題にする機会が増えたと思う事
認知症の知識を地域の方に直に伝えたり、相談を受けられる場になっている
専門家もボランティアで参加してくれ普段の関係と違うので生の声を楽しんでいるケースもある
スタッフに地域の役員が多く、コア地域情報やゆるやかな見守りへの啓発につながっている。
地域とのつながりの重要性を非常に感じられる
心療内科医師がカフェに興味を持ち講座などを開いてくれるようになったことで、カフェの広報につながり住民の参加につながった
認知症の理解や介護情報など知識を深め約立てることができた
介護情報を必要としている方へ専門職の知識を活かし、介護情報を適時適切に案内できた
サポート医の一人は、診察時とは違う本人の一面を知ることができた。ケアプラ職員は、介護サービスにつなげたり、自身の学びの場になっている。
一緒に楽しみ、自身たちの学びになっている
地域の中で課題を持った人を、先ずカフェにつなげてみよう！という動きが出た
異職種の方のお話も参考になる
キャラバン・メイトや認知症サポーター養成講座を受ける人が増えました
専門職間での横のつながりを広げることができた
地域に住んでいる人と直接話すことができる
認知症の方とかかわることができる→情報を伝える場ができる
区役所、地域ケアプラザなどにつながっていない方をつなげる役割も担っており、本心をまだ話せていない方など、精神面の深刻な状況と判断する方を専門職につなげ、フォローしていただくよう要請している→専門職が適切に状況を把握し支援
若年性認知症の当事者を理解することが出来た（当事者と話しをすることで困っていること、何が必要なのか知ることが出来た）
担当している利用者においては自宅では見られない顔が見れ、その後の支援の参考になること
他施設の職員も広報を見て来所、参加者と一緒に楽しく交流が図れている
地域包括支援センターのケアマネジャーと気になる方について話し合ったときに身近な拠点
時々様子を見に来てくださり、利用者を観察したり、新しい利用者を紹介してくださっている。
各々の「プロの技」を学べる場となっている。
社会資源の活用。情報収集
コミュニケーション、地域交流
当事者やご家族の様子を知ること、次の支援につなげることができる。 認知症の普及、啓発につながっている。
認知症関連の学習やイベントへの参加向上

その他の効果
学生が病院実習へ行く前に高齢者とかかわることでコミュニケーション能力が向上
学生にとって作業の力を見ることができ、専門職等がどのように認知症当事者に接している等非常に良い学びの場になっている
80代、90代の方との交流ができる→笑顔があふれている→口コミでの広がり嬉しい悲鳴
次のカフェでは、手作りお菓子で何を作ろうかと考え、工夫するようになった。（ボランティアが前日に作成）
ボランティアが多くの人と会話しようとしている。ボランティアの意欲継続につながる。
認知症の方がスタッフとして加わり、やりがいを持つ。
地域とのつながりの窓口の一つとなっている。
カフェ以外の場所で参加者にお会いしても、声が掛けられる。
認知症が特別な病気ではなく、地域の中で受け入れられ支えあえる可能性が可視化できる
ボランティアとして参加される住民は増え、認知症の方との関わりを積極的にもってくださる。
昨年あたりから区役所・地域ケアプラザ・社会福祉協議会などからの依頼で、カフェについてPRする場を与えてもらい話す機会を頂いている。その効果か、地域外からの参加者もみられるようになった。
参加者が参加者（施設の利用者）へ、近隣住民を紹介してくれる
他の認知症、予防カフェ実施団体との交流も深まり情報交換や、運営方法について参考になっている。
ボランティアスタッフは高齢者が多いのだが、いきいき輝いて活動しているため、自身たちの認知症予防になっている
特別養護老人ホームの中でカフェを開催しているため、入居者10人程度も参加しており、楽しんでいる
地域の人やカフェスタッフ、ケアプラザ、旭区、社協など。顔の見える関係が出来ている
若年認知症の人が制度を利用する前の定期的な参加ができる場となっている
広報やチラシを見た近隣の障がい者施設の方々も参加され和気あいあいと過ごしている
地域内、認知症カフェへの偏見が少しずつなくなっている
事業所が地域に貢献できる場となっていると思う。
コミュニケーション、地域交流



<p>⑧参加費</p>	<p><input type="checkbox"/> 1. 1 回ごとに利用料をもらう（参加費                    円） （利用料の主な用途： _____）</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 無料 （運営の主財源： _____）</p> <p><input type="checkbox"/> 3. その他（ _____ ）</p>
<p>⑨主なプログラム （複数回答可）</p>	<p>■具体的なプログラムや内容の詳細、特徴をご記入ください</p> <p>■カフェで主に行われる内容すべてをチェックしてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 特にプログラムはない</p> <p><input type="checkbox"/> 2. ミニ講話</p> <p><input type="checkbox"/> 3. アクティビティ（歌、工作、作業など）</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 介護相談</p> <p><input type="checkbox"/> 5. 家族と本人が分かれてミーティングを行う</p> <p><input type="checkbox"/> 6. カフェタイム</p> <p><input type="checkbox"/> 7. その他（ _____ ）</p>
<p>⑩参加事前申込</p>	<p><input type="checkbox"/> 1. 必要</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 不要</p> <p><input type="checkbox"/> 3. その他（ _____ ）</p>
<p>⑪カフェの主な目的 （2つまで回答可）</p>	<p><input type="checkbox"/> 1. 認知症の本人や家族同士の相互交流・情報交換</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 家族の介護負担の軽減</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 認知症症状の悪化予防</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 地域での認知症啓発</p> <p><input type="checkbox"/> 5. その他(具体的に： _____ )</p>
<p>⑫1 回あたりの平均的な 参加者数と内訳 （複数回答可）</p>	<p>●認知症の人 約（ _____ ）人</p> <p>■認知症の人の主な程度</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 心配な方、MCI※やごく軽度の方が多い</p> <p><input type="checkbox"/> 2. ごく軽度の方か中等度の方が多い</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 中等度、重度の方が多い</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 様々な程度の方が参加している</p> <p><input type="checkbox"/> 5. その他（ _____ ）</p> <p>※軽度認知障害のことで、正常と認知症の中間の状態をいう。</p> <p>■認知症の人の年齢</p> <p>1. 65歳以上の認知症のご本人（ _____ ）人</p> <p>2. 64歳以下の認知症のご本人（ _____ ）人</p> <p>●家族 約（ _____ ）人</p> <p>●地域住民 約（ _____ ）人</p> <p>●専門職 約（ _____ ）人</p> <p>●その他（ _____ ）人程度（具体的に： _____ ）</p> <p>◎毎回の平均的な合計参加人数（ _____ ）人程度</p>

<p>⑬参加者の主な交通手段 (複数回答可)</p>	<p><input type="checkbox"/> 1. 徒歩  <input type="checkbox"/> 2. バス  <input type="checkbox"/> 3. 電車  <input type="checkbox"/> 4. 家族等の送迎  (駐車場の有無: _____)  <input type="checkbox"/> 5. その他 ( _____ )</p>						
<p>⑭認知症の人の参加形態 (複数回答可)</p>	<p><input type="checkbox"/> 1. 主に参加者として  <input type="checkbox"/> 2. 役割を持ってもらう  ※(役割内容: _____)  <input type="checkbox"/> 3. その他 ( _____ )</p>						
<p>⑮運営スタッフの内訳 (複数回答可)</p>	<p>■認知症カフェの運営を専属で担当するスタッフの有無  <input type="checkbox"/> 1. いる  <input type="checkbox"/> 2. いない  ■専門職 約 ( _____ ) 人  ※具体的な職種をチェックしてください。  <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 社会福祉士 <input type="checkbox"/> 介護福祉士 <input type="checkbox"/> 介護支援専門員  <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> その他 ( _____ )  ■地域住民 約 ( _____ ) 人 (所属組織など: _____)  ■その他 約 ( _____ ) 人 (具体的に: _____)</p>						
<p>⑯運営スタッフ等の役割 について</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">専門職の役割</td> <td style="width: 70%;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">地域住民の役割</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">その他の人の役割</td> <td></td> </tr> </table>	専門職の役割		地域住民の役割		その他の人の役割	
専門職の役割							
地域住民の役割							
その他の人の役割							
<p>⑰運営にかかわる主な財 源 (複数回答可)</p>	<p><input type="checkbox"/> 1. 参加費  <input type="checkbox"/> 2. 自治体等公的機関からの助成、補助金  <input type="checkbox"/> 3. 財団などからの助成、補助金  <input type="checkbox"/> 4. 法人などで予算化  <input type="checkbox"/> 5. その他</p> <p>■助成金、補助金などがある場合にはその助成、補助の実施主体名、金額を教えてください。</p>						
<p>⑱開設の資金</p>	<p>約 _____ 円  具体的な内訳:</p>						
<p>⑲年間の運営費</p>	<p>約 _____ 円 ※開設1年未満の場合は見込みです  具体的な内訳:</p>						

②他の機関や事業所等との連携	<input type="checkbox"/> 1. 連携をしている <input type="checkbox"/> 2. 連携が必要だと思うがまだ連携をしていない <input type="checkbox"/> 3. 連携の必要性を感じていない	
②1カフェの運営にあたって連携している団体 ※ここで指す連携とは直接の企画運営のことです。 ※自治会、町内会等も団体とします。	か所	団体名
②2カフェの <u>運営以外</u> で協力をしてくれる団体 ※直接の企画運営以外の広報等の協力のことを指します。	<b>■</b> 具体的な協力団体とその内容をご記入ください 例) 町内会が会場として町内会館を貸してくれる。	
②3開設までの経緯等 (自由記述)	<b>■</b> 具体的にご記入ください (例: 介護する家族が困っている様子を見て、認知症の人が増えている新聞記事を読んで など)	
②4始めるにあたって課題となった点 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 1. 場所の選定 <input type="checkbox"/> 2. プログラムや内容 <input type="checkbox"/> 3. 費用 <input type="checkbox"/> 4. 広報や告知 <input type="checkbox"/> 5. 所属組織の理解 <input type="checkbox"/> 6. 地域の理解 <input type="checkbox"/> 7. その他	
	具体的にご記入ください：	

## 2. 現状のカフェの運営の課題や現状について伺います。

2-1 下記の項目について、もっとも当てはまると思う番号を○で囲んでください。ご記入された方の主観で結構です。

	そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	思わない			
①認知症の方の参加者が集まらない	4	—	3	—	2	—	1
②認知症カフェの認知度が低い	4	—	3	—	2	—	1
③地域の理解が得られていない	4	—	3	—	2	—	1
④開催場所の確保が難しい	4	—	3	—	2	—	1
⑤運営費用の確保が難しい	4	—	3	—	2	—	1
⑥プログラムや内容で困っている	4	—	3	—	2	—	1
⑦運営スタッフが集まらない	4	—	3	—	2	—	1
⑧運営スタッフのスキルアップが必要	4	—	3	—	2	—	1
⑨全般的に順調である	4	—	3	—	2	—	1

2-2 現在、認知症カフェを運営するうえで感じている課題や疑問についてご自由にご記入ください。

--

2-3 下記の項目について工夫を教えてください。アイデアだけのご記入でも構いません。

課題	工夫 (すでに取り組んでいるものは太枠内に○を記入してください)
①認知症の人や家族に周知する方法	<input type="checkbox"/>
②地域の人に周知、広報する方法	<input type="checkbox"/>
③運営側の人材育成の方法、協力者の募集	<input type="checkbox"/>
④継続的に運営する方法	<input type="checkbox"/>
⑤参加できない人が参加するための工夫	<input type="checkbox"/>
⑥参加しやすい雰囲気を作る工夫	<input type="checkbox"/>

3. 認知症カフェを運営するうえで、現時点でその効果が表れていると感じていることがあればその事例をご記入ください。

効果	事例
①認知症の人への効果	
②地域住民への効果	
③家族介護者への効果	
④専門職等への効果	
⑤その他の効果	

4. 認知症カフェの立ち上げや今後カフェを継続していく上で、特に必要と思う支援があればご記入ください。

<p>①認知症カフェの立ち上げ (2つまで回答可)</p>	<p><input type="checkbox"/> 1. 認知症カフェの周知啓発  <input type="checkbox"/> 2. 運営スタッフの養成 (人員の確保)  <input type="checkbox"/> 3. 運営方法やプログラムに関する研修の機会  <input type="checkbox"/> 4. 認知症カフェ運営者の交流の機会  <input type="checkbox"/> 5. 専門職による支援  <input type="checkbox"/> 6. 運営費用の補助  <input type="checkbox"/> 7. その他 ( )</p>
<p>②認知症カフェの継続的な運営 (2つまで回答可)</p>	<p><input type="checkbox"/> 1. 認知症カフェの周知啓発  <input type="checkbox"/> 2. 運営スタッフの養成 (人員の確保)  <input type="checkbox"/> 3. 運営方法やプログラムに関する研修の機会  <input type="checkbox"/> 4. 認知症カフェ運営者の交流の機会  <input type="checkbox"/> 5. 専門職による支援  <input type="checkbox"/> 6. 運営費用の補助  <input type="checkbox"/> 7. その他 ( )</p>

調査にご協力いただきありがとうございました。



**横浜市における認知症カフェの実態に関する  
調査報告書**

令和2年3月発刊

発行所 横浜市健康福祉局高齢在宅支援課